

第 133 回
火山噴火予知連絡会資料
(その 10)
九州地方及び南西諸島

平成 27 年 10 月 21 日

火山噴火予知連絡会資料（その10）

目次

九州地方

鶴見岳・伽藍岳	3
気象庁	3-6
九重山	7
気象庁	7-12
雲仙岳	13
気象庁	13-18、九大 19-21、防災科研 22-26、地理院 27
若尊	28
海保	28
山川	29
海保	29
開聞岳	30
京大桜島	30、海保 31

南西諸島

薩摩硫黄島	32
気象庁	32-35、京大桜島 36、海保 37-38
口之島	39
海保	39
中之島	41
京大桜島	40、海保 41
悪石島	42
海保	42
横当島	43
海保	43
硫黄島	44
気象庁	44-45、海保 46-47
西表島北北東海底火山	48
海保	48
その他	49
地理院	49-51

鶴見岳・伽藍岳（2015 年 9 月 30 日現在）

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められない。

○ 概況（2015 年 5 月～9 月 30 日）

・噴気の状態（第 1 図）

監視カメラ（大分県）による遠望観測では、噴気は観測されなかった。

・地震、微動活動（第 2 図、第 3 図、第 6 図）

火山性地震は A 型地震が 7 回、B 型地震が 1 回発生した。この B 型地震（5 月 4 日 11 時 05 分に発生）は、継続時間のやや長い地震であった。

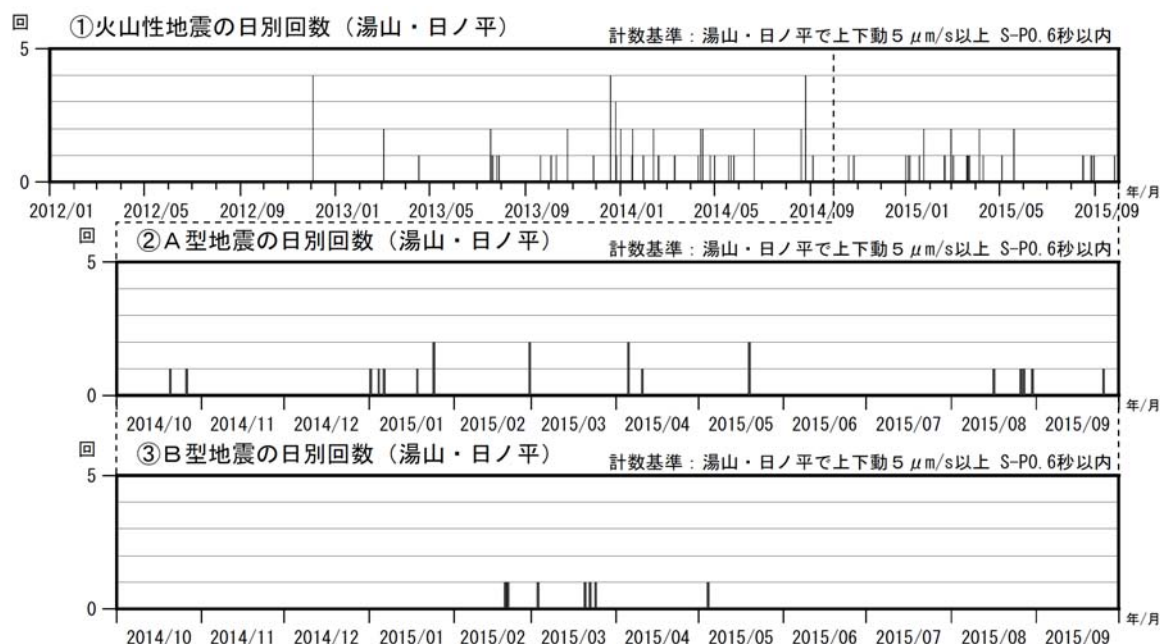
2010 年 11 月の観測開始以降、火山性微動は観測されていない。

・地殻変動の状況（第 4 図、第 5 図）

GNSS 連続観測では、火山活動によると考えられる変化は認められなかった。



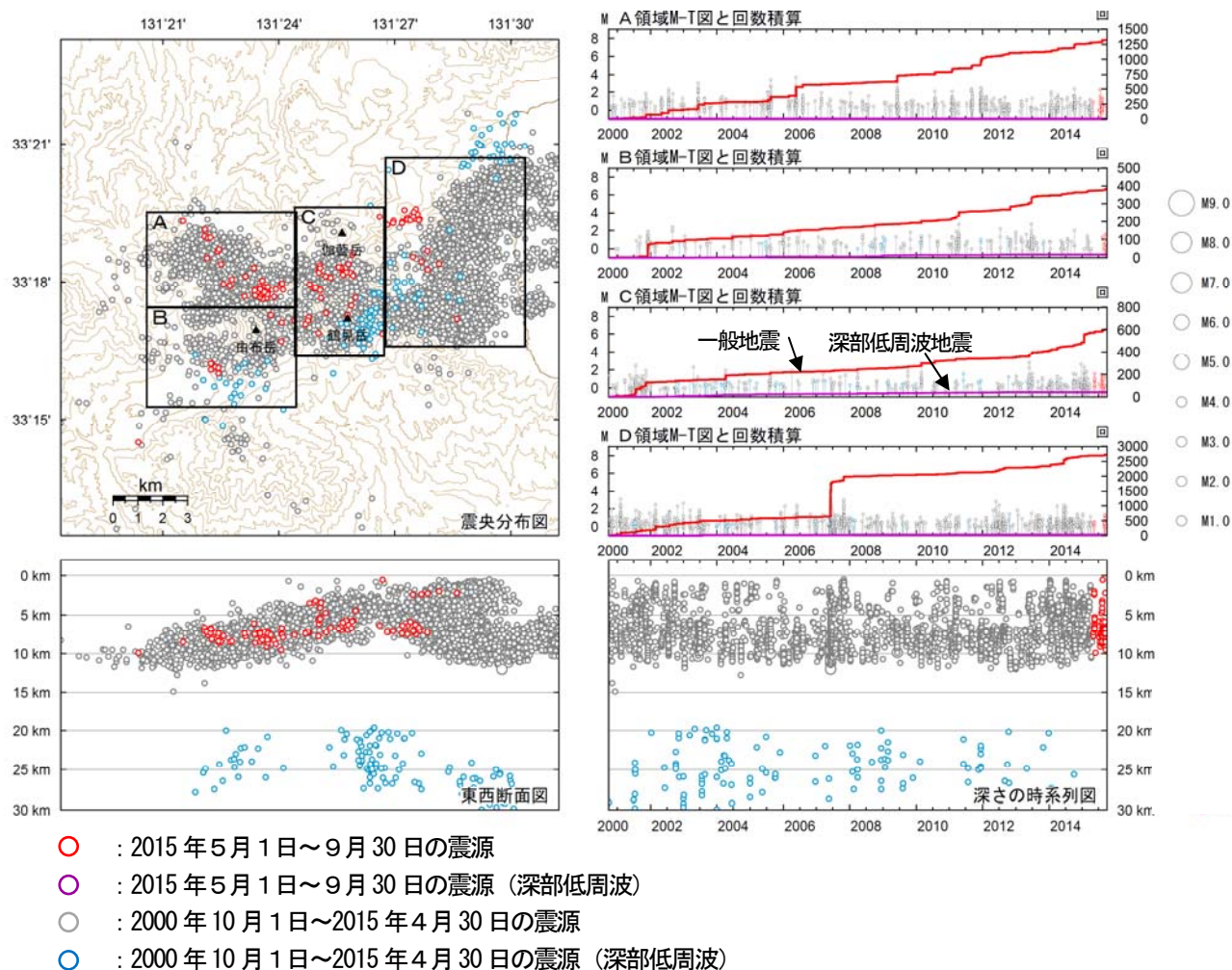
第 1 図 鶴見岳・伽藍岳の状況（8 月 10 日、鶴見岳監視カメラ（大分県）による）



第2図 鶴見岳・伽藍岳 火山性地震の日別回数（2012年1月1日～2015年9月30日）

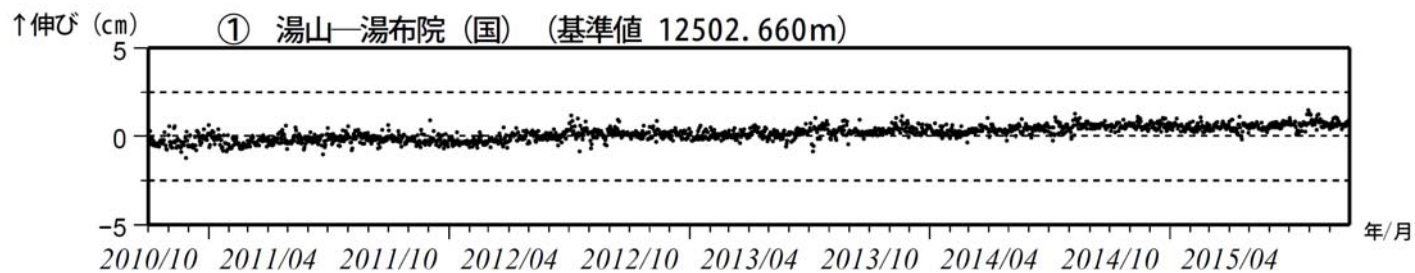
<2015年5月1日～9月30日の状況>

火山性地震はA型地震が7回、B型地震が1回発生した。



第3図 鶴見岳・伽藍岳 一元化震源による震源分布図（2000年10月1日～2015年9月30日）

この地図の作成には、国土地理院発行の『数値地図50mメッシュ（標高）』を使用した。



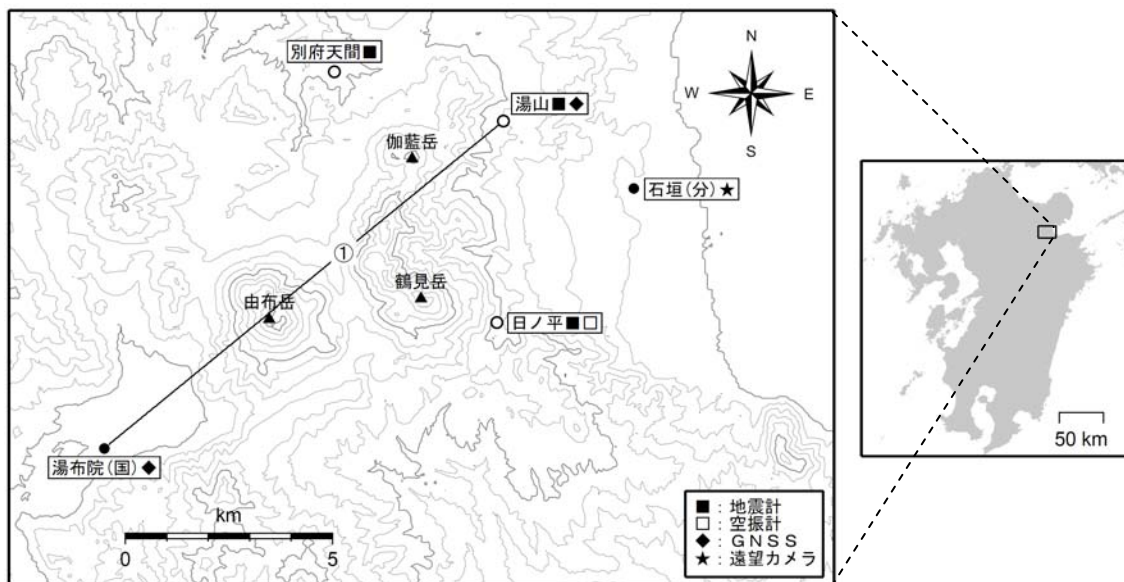
第 4 図 鶴見岳・伽藍岳 GNSS連続観測による基線長変化

(2010 年 10 月 1 日～2015 年 9 月 30 日)

火山活動によると考えられる変化は認められなかった。

この基線は第 5 図の①に対応している。

(国) : 国土地理院



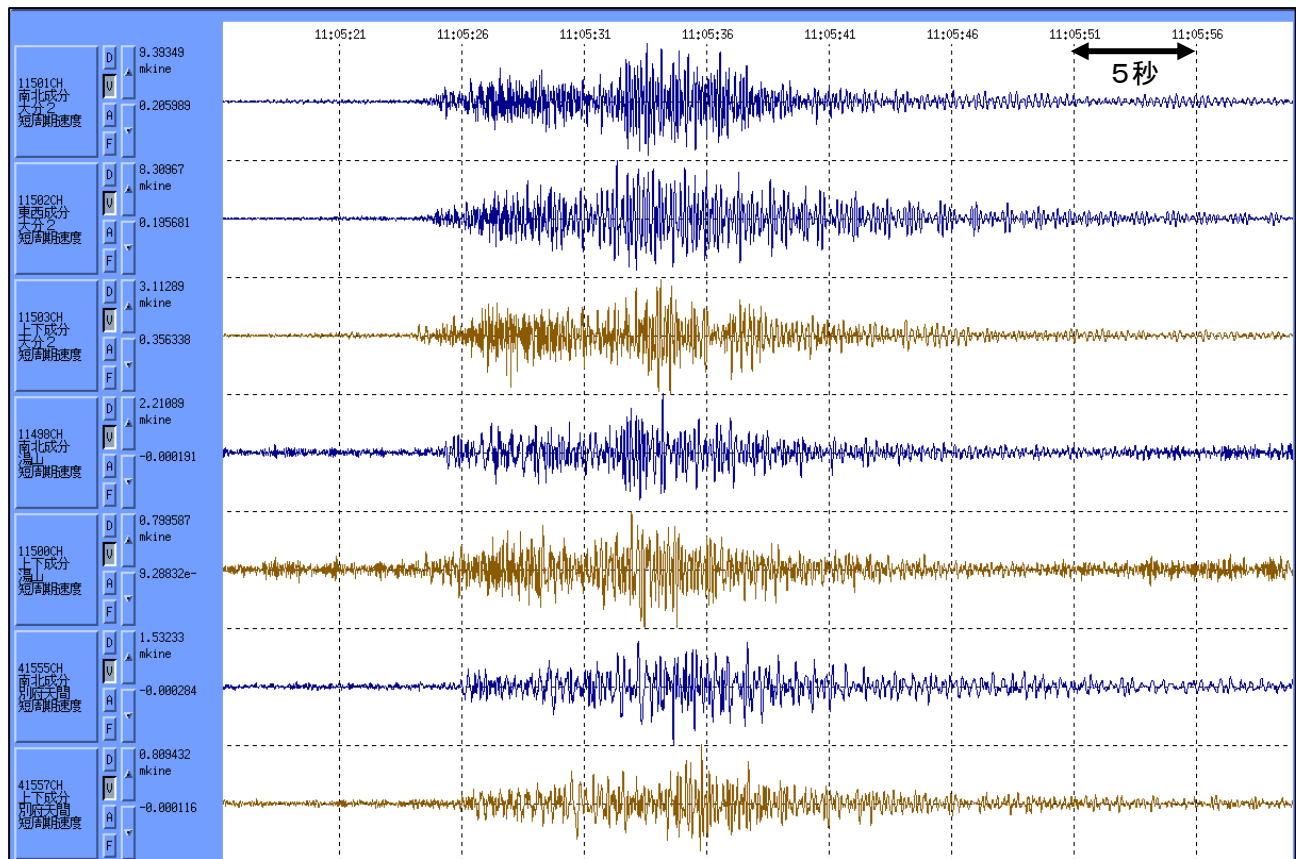
第 5 図 鶴見岳・伽藍岳 観測点配置図

小さな白丸 (○) は気象庁、小さな黒丸 (●) は気象庁以外の機関の観測点位置を示す。

(国) : 国土地理院、(分) : 大分県

遠望観測点「石垣 (分)」は鶴見岳監視カメラ (大分県) を示している。

この地図の作成には、国土地理院発行の『数値地図 50mメッシュ (標高)』を使用した。



第 6 図 鶴見岳・伽藍岳 5 月 4 日に発生した B 型地震の波形

5 月 4 日 11 時 05 分に継続時間のやや長い B 型地震が発生した。

九 重 山

(2015 年 9 月 30 日現在)

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められないが、GNSS 連続観測によると、わずかに伸びの傾向が見られており、今後の火山活動の推移に注意が必要である。噴火予報（噴火警戒レベル 1、活火山であることに留意）の予報事項に変更はない。

○ 概況（2015 年 5 月～9 月 30 日）

・ 噴煙活動（第 1 図、第 2 図-①③）

噴煙活動は低調で、噴煙の高さは 200m 以下で経過した。

・ 地震、微動活動（第 2 図-②④、第 3 図）

火山性地震は少ない状態で経過した。

一元化震源によると、大船山北西領域でややまとまった活動が観測された。

火山性微動は観測されなかった。

・ 地殻変動（第 4～6 図）

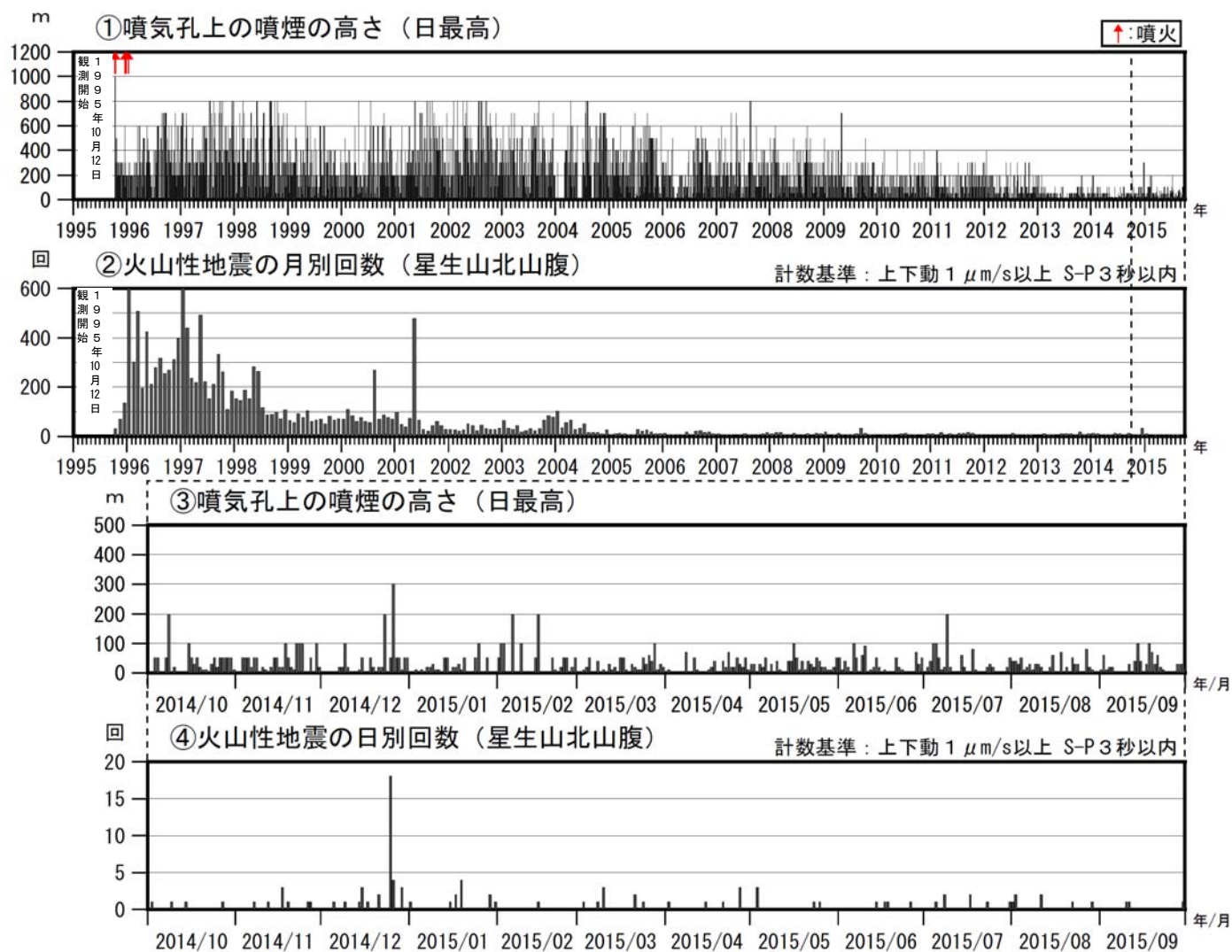
GNSS 連続観測では、坊ガツルー牧ノ戸峠、星生山北山腹一坊ガツル、星生山北山腹一直入 A の基線で、2012 年頃からわずかに伸びの傾向が認められる。

傾斜計では、火山活動によると考えられる変化は認められなかった。



第 1 図 九重山 噴煙の状況（2015 年 8 月 27 日、上野遠望カメラによる）

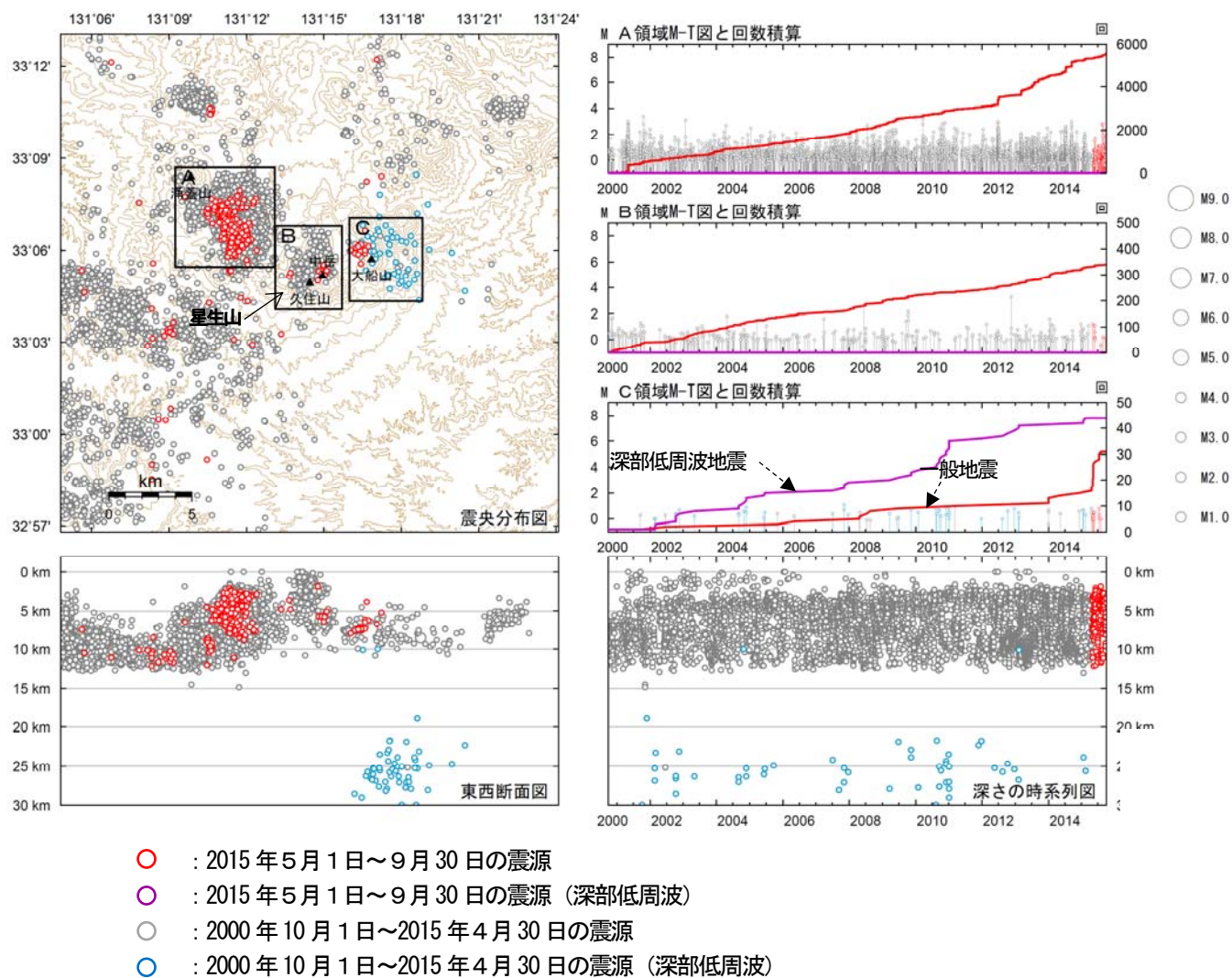
この資料は気象庁のほか、国土地理院、国立研究開発法人防災科学技術研究所及び大分県のデータを利用して作成した。



第2図 九重山 火山活動経過図（1995年10月12日～2015年9月30日）

＜2015年5月1日～9月30日の状況＞

- ・噴煙活動は低調で、噴煙の高さは200m以下で経過した。
- ・火山性地震は少ない状態で経過した。

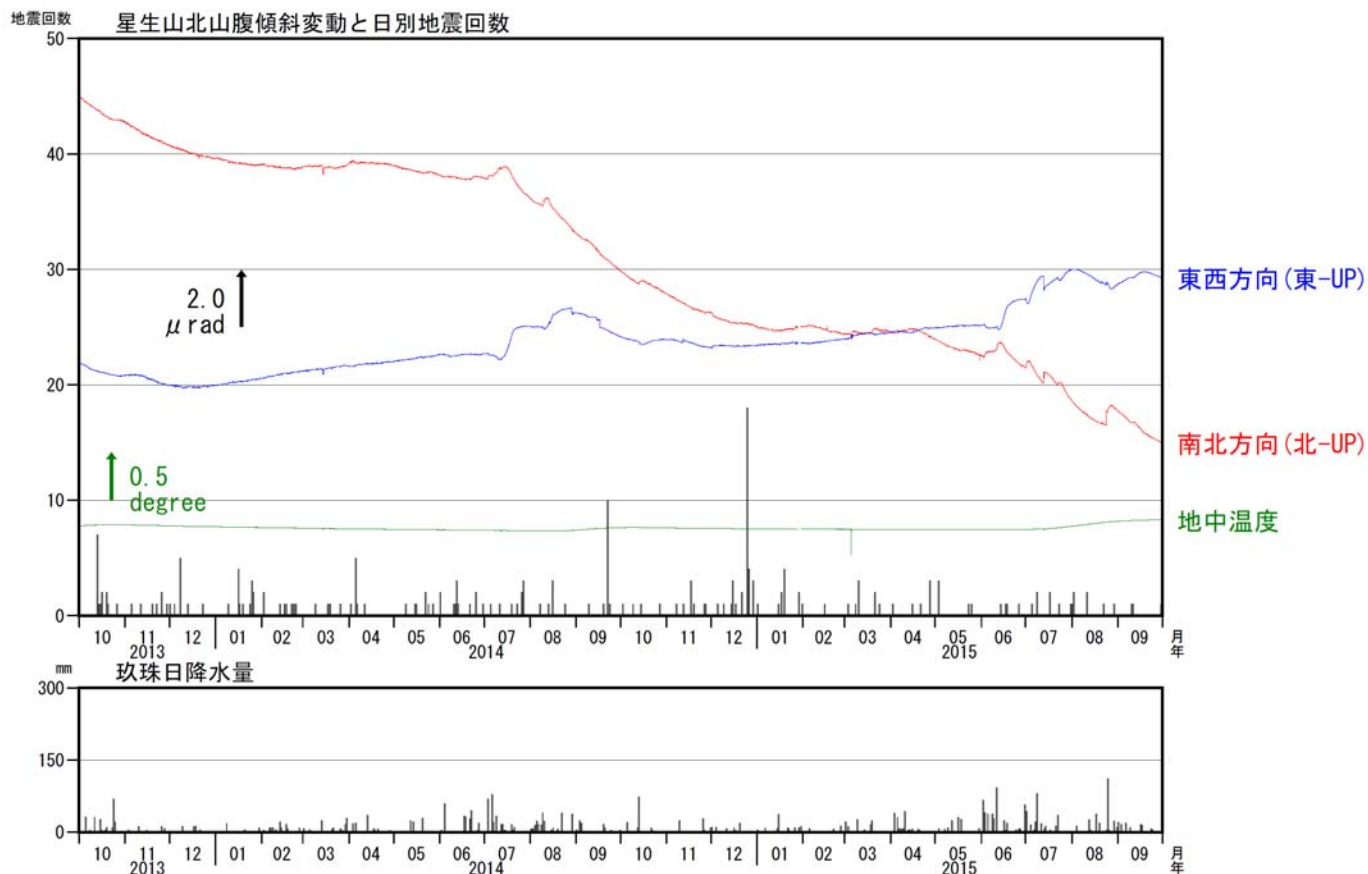


第3図 九重山 一元化震源による震源分布図 (2000年10月1日~2015年9月30日)

＜2015 年 5 月 1 日～9 月 30 日の状況＞

大船山北西領域でややまとまった活動が観測された。

この地図の作成には、国土地理院発行の『数値地図 50mメッシュ (標高)』を使用した。

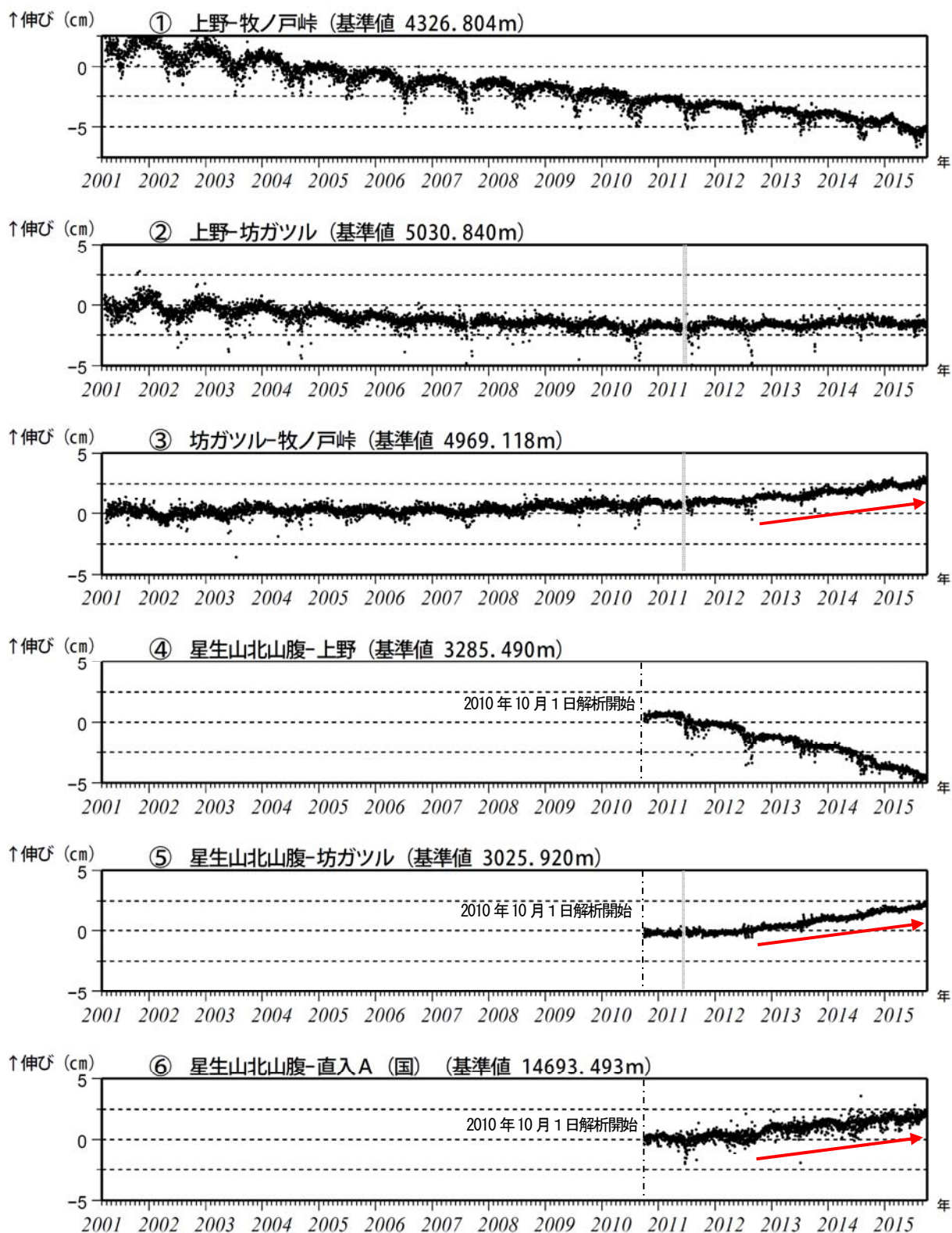


第4図 九重山 傾斜変動 (2013年10月1日～2015年9月30日、時間値、潮汐補正済み)

<2015年5月1日～9月30日の状況>

火山活動によると考えられる変化は認められなかった。

毎年6月～8月頃の変動は、降水等の気象条件の影響も含まれる。



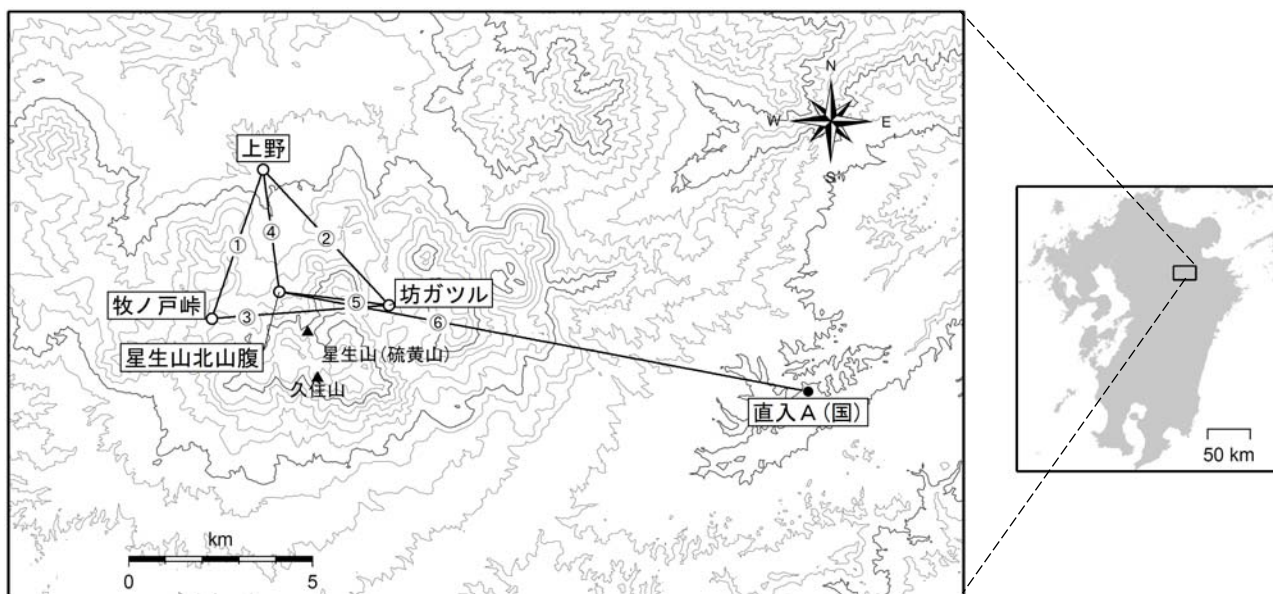
第5図 九重山 GNSS 連続観測による基線長変化 (2001年3月22日～2015年9月30日)

③坊ガツル-牧ノ戸峠、⑤星生山北山腹-坊ガツル、⑥星生山北山腹-直入Aの基線で、2012年頃からわずかに伸びの傾向が認められる。

この基線は第6図の①～⑥に対応している。

2010年10月以降のデータについては解析方法を改良し、対流圏補正と電離層補正を行っている。

(国)：国土地理院

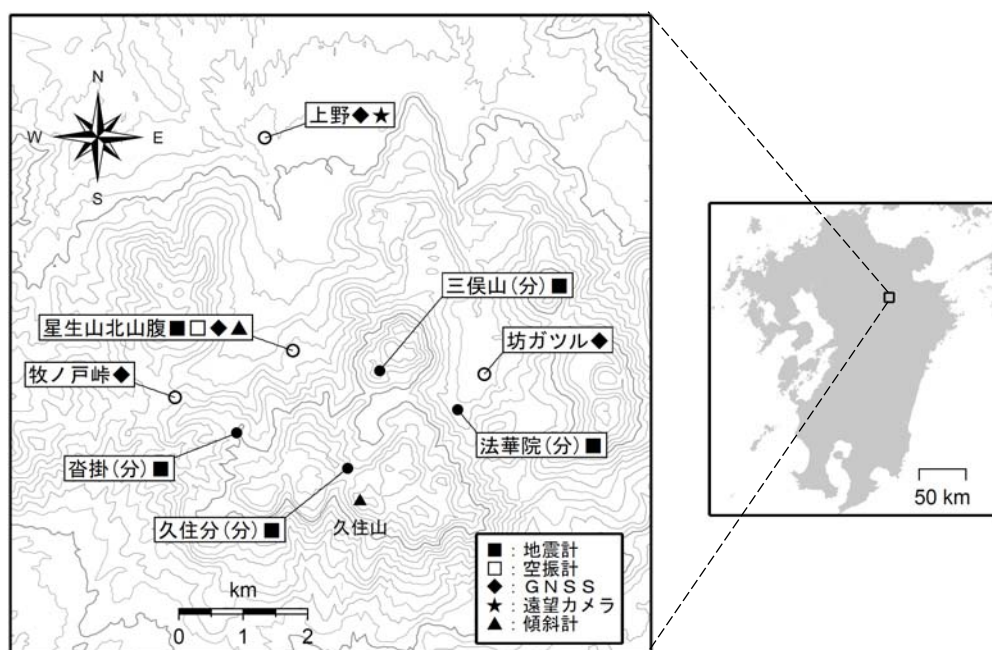


第6図 九重山 GNSS 観測点基線図

小さな白丸 (○) は気象庁、小さな黒丸 (●) は気象庁以外の機関の観測点位置を示す。

(国) : 国土地理院

この地図の作成には、国土地理院発行の『数値地図 50mメッシュ (標高)』を使用した。



第7図 九重山 観測点配置図

小さな白丸 (○) は気象庁、小さな黒丸 (●) は気象庁以外の機関の観測点位置を示す。

(分) : 大分県

この地図の作成には、国土地理院発行の『数値地図 50mメッシュ (標高)』を使用した。

雲 仙 岳 （2015 年 9 月 30 日現在）

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められない。
長期的には 2010 年頃から地震活動がやや活発となっており、GNSS 連続観測では、一部の基線で、2015 年 6 月頃から、わずかな伸びの傾向が認められるので、今後の火山活動の推移に注意が必要である。
噴火予報（噴火警戒レベル 1、活火山であることに留意）の予報事項に変更はない。

○ 概況（2015 年 5 月～ 9 月 30 日）

・噴気活動（第 1 図、第 2 図- ）

9 月に白色の噴気が時々観測され、最高で 100m まで上がった。

・地震、微動活動（第 2 図- 、第 3 図、第 4 図、第 8 図）

火山性地震は時々発生した。震源は、平成新山付近の海拔下約 1 ～ 3 km に分布した。

長期的には、2010 年頃から火山性地震の活動がやや活発となっている。

火山性微動は観測されなかった。

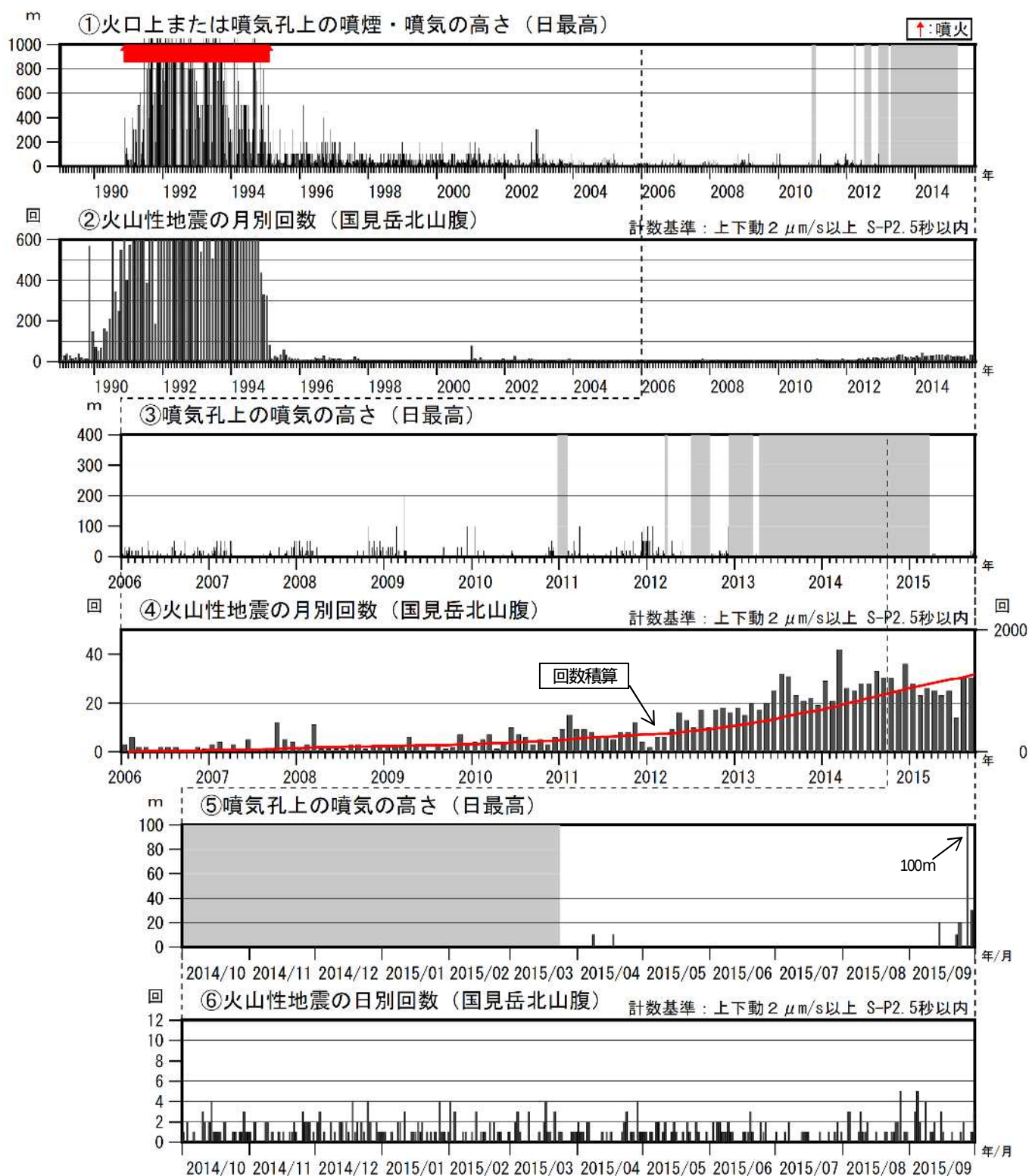
・地殻変動（第 5 ～ 7 図）

GNSS 連続観測及び傾斜計では、新湯 - 田代原、田代原 - 小浜(国)の基線で、2015 年 6 月頃から、わずかな伸びの傾向が認められる。



第 1 図 雲仙岳 噴気の状態（2015 年 8 月 23 日、野岳遠望カメラによる）

この資料は気象庁のほか、国土地理院、九州地方整備局（長崎県経由）、九州大学及び国立研究開発法人防災科学技術研究所のデータを利用して作成した。



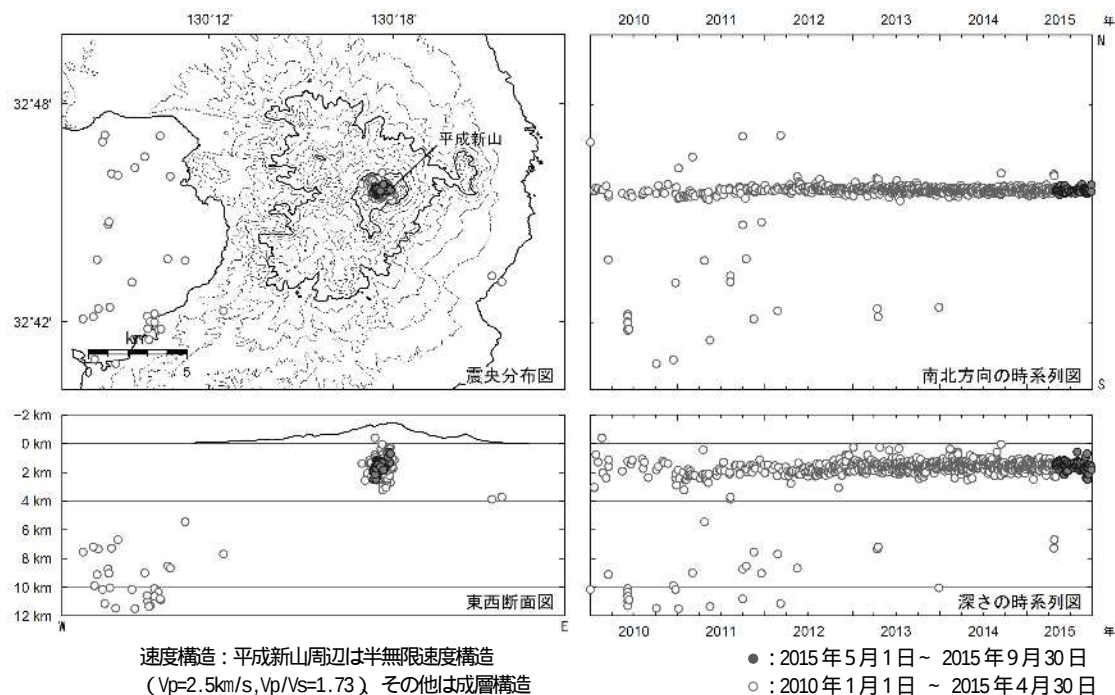
第 2 図 雲仙岳 火山活動経過図（1989 年 1 月 1 日～2015 年 9 月 30 日）

<2015 年 5 月 1 日～9 月 30 日の状況>

- ・ 9 月に白色の噴気が時々観測され、最高で 100m まで上がった。
- ・ 火山性地震は時々発生した。
- ・ 火山性微動は観測されなかった。
- ・ 長期的には、2010 年頃から火山性地震の活動がやや活発となっている。

火山性地震の回数については、2012 年 8 月 31 日までは矢岳南西山腹の計数基準（上下動 $5 \mu\text{m/s}$ 以上）で計算している。

灰色部分は遠望カメラ障害のため欠測。

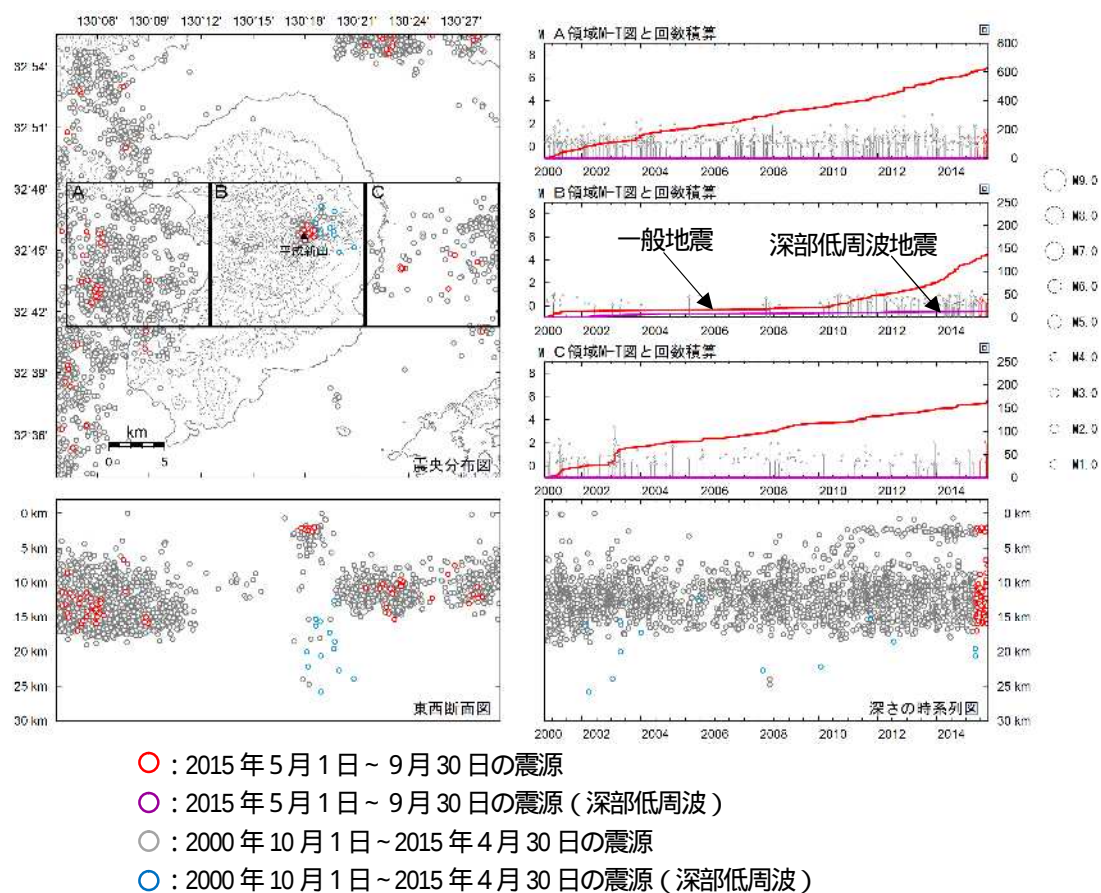


第3図 雲仙岳 火山性地震の震源分布図(2010年1月1日～2015年9月30日)

<2015年5月1日～9月30日の状況>

震源は、平成新山付近の海拔下約1～3kmに分布した。

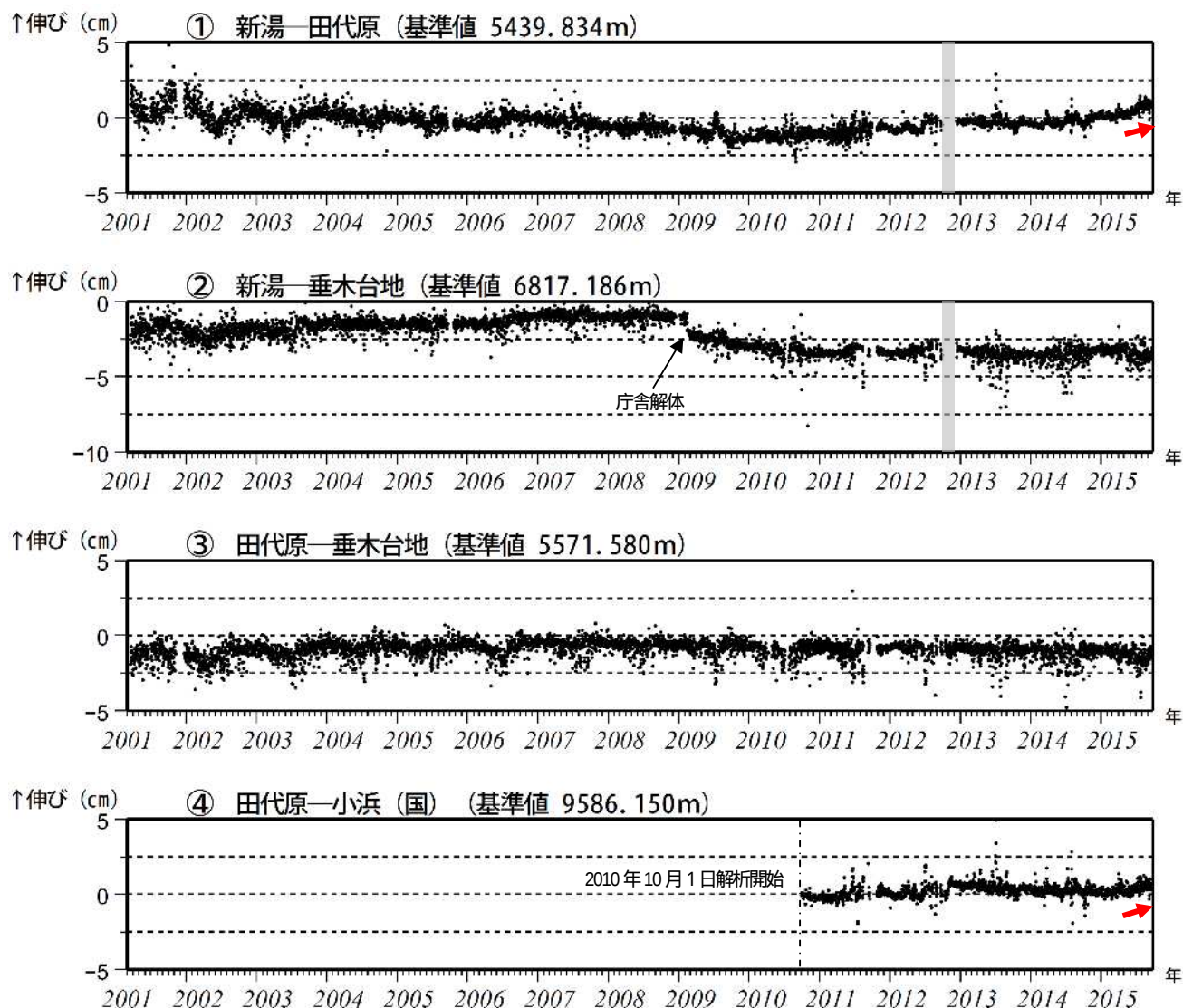
この地図の作成には、国土地理院発行の『数値地図50mメッシュ(標高)』を使用した。



第4図 雲仙岳 一元化震源による震源分布図(2000年10月1日～2015年9月30日)

・長期的には、2010年頃からB領域の火山性地震がやや活発となっている。

この地図の作成には、国土地理院発行の『数値地図50mメッシュ(標高)』を使用した。



第 5 図 雲仙岳 GNSS 連続観測による基線長変化 (2001 年 3 月 19 日～2015 年 9 月 30 日)

GNSS 連続観測では、新湯 - 田代原、田代原 - 小浜 (国) の基線で、2015 年 6 月頃から、わずかな伸びの傾向が認められる。

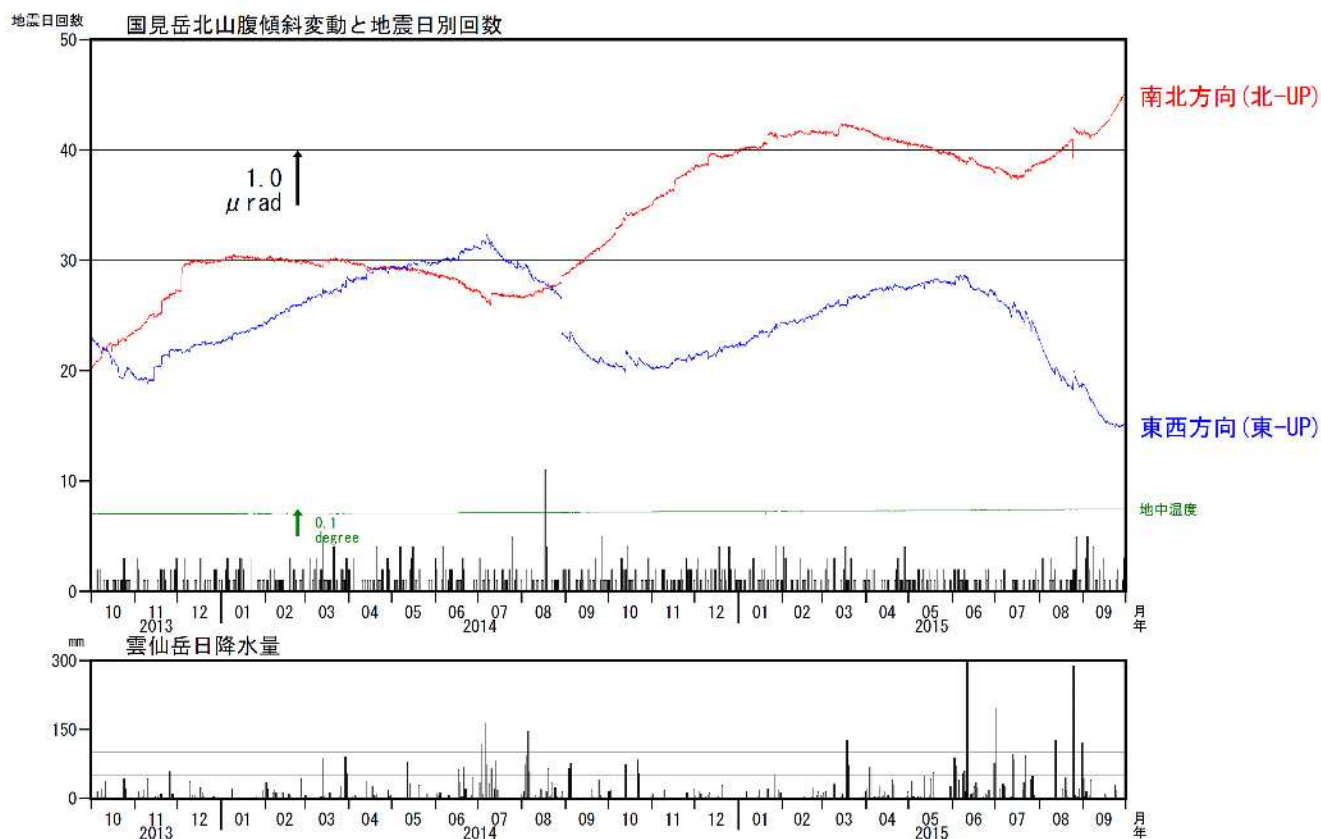
この基線は第 7 図の ~ に対応している。

2010 年 10 月以降のデータについては解析方法を改良し、対流圏補正と電離層補正を行っている。

の基線にみられる 2009 年 2 月頃の変化 (矢印) は、雲仙岳観測所の庁舎解体に伴う変動と考えられる。

灰色の部分は機器障害のための欠測を示している。

(国): 国土地理院

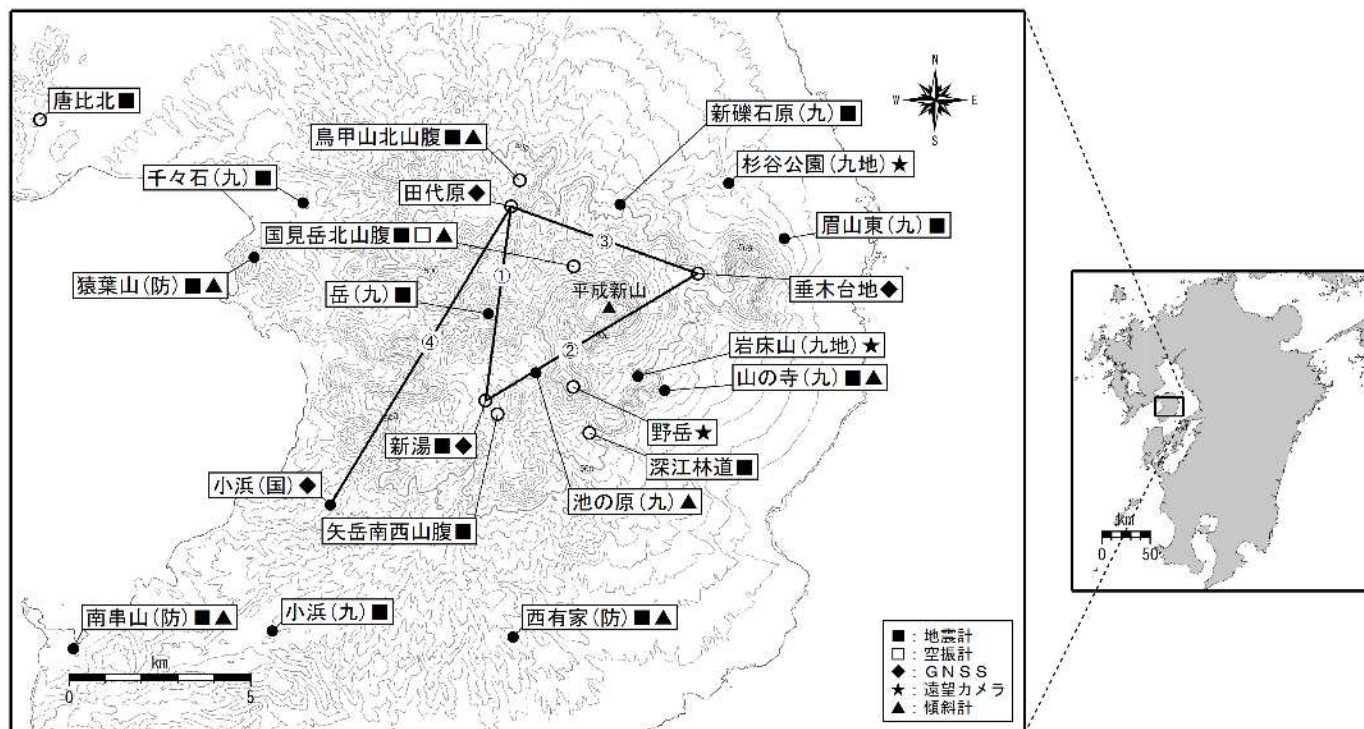


第 6 図 雲仙岳 傾斜変動(2013 年 10 月 1 日～2015 年 9 月 30 日、時間値、潮汐補正済み)

<2015 年 5 月 1 日～9 月 30 日の状況>

傾斜計では、火山活動によると考えられる変化は認められなかった。

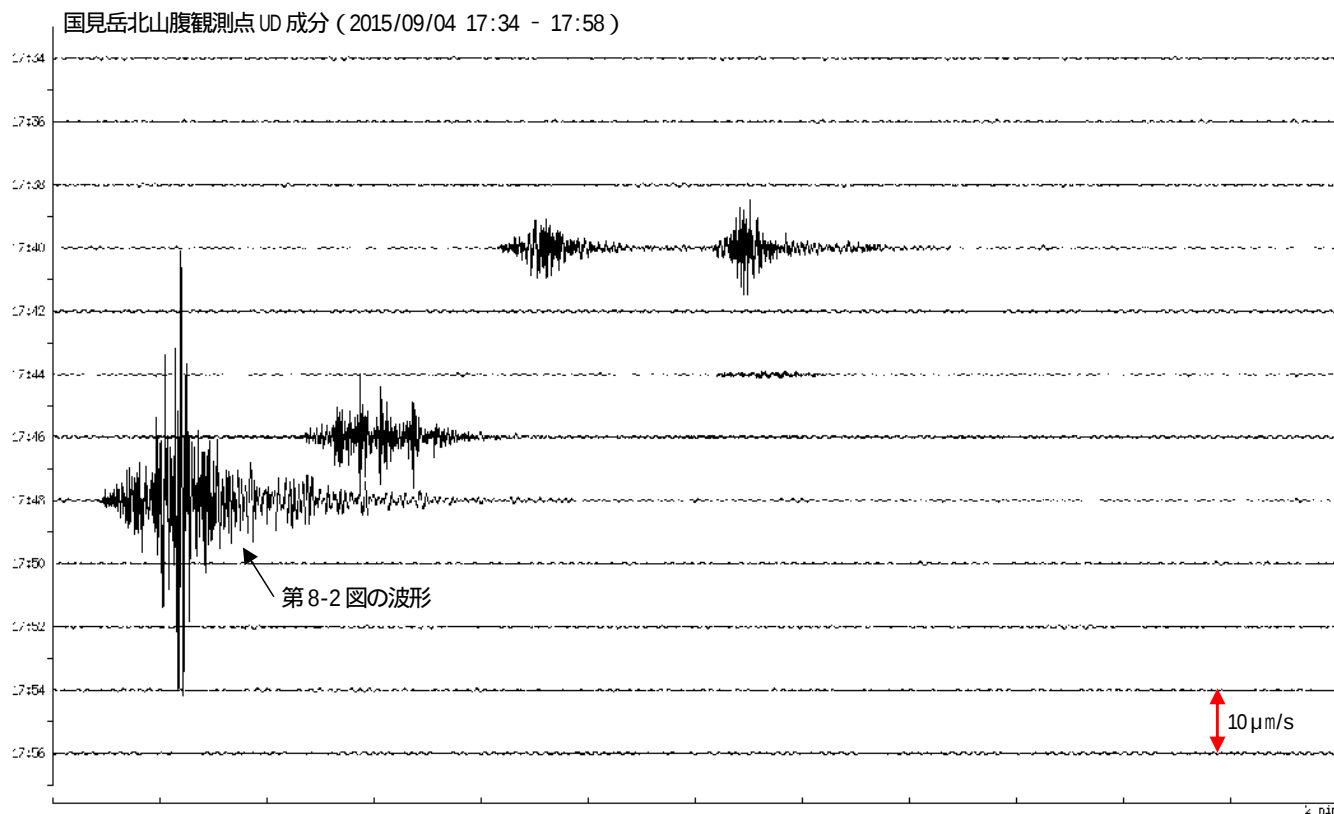
7～10 月頃にかけての変動は、降水によるものと考えられる。



第 7 図 雲仙岳 観測点配置図

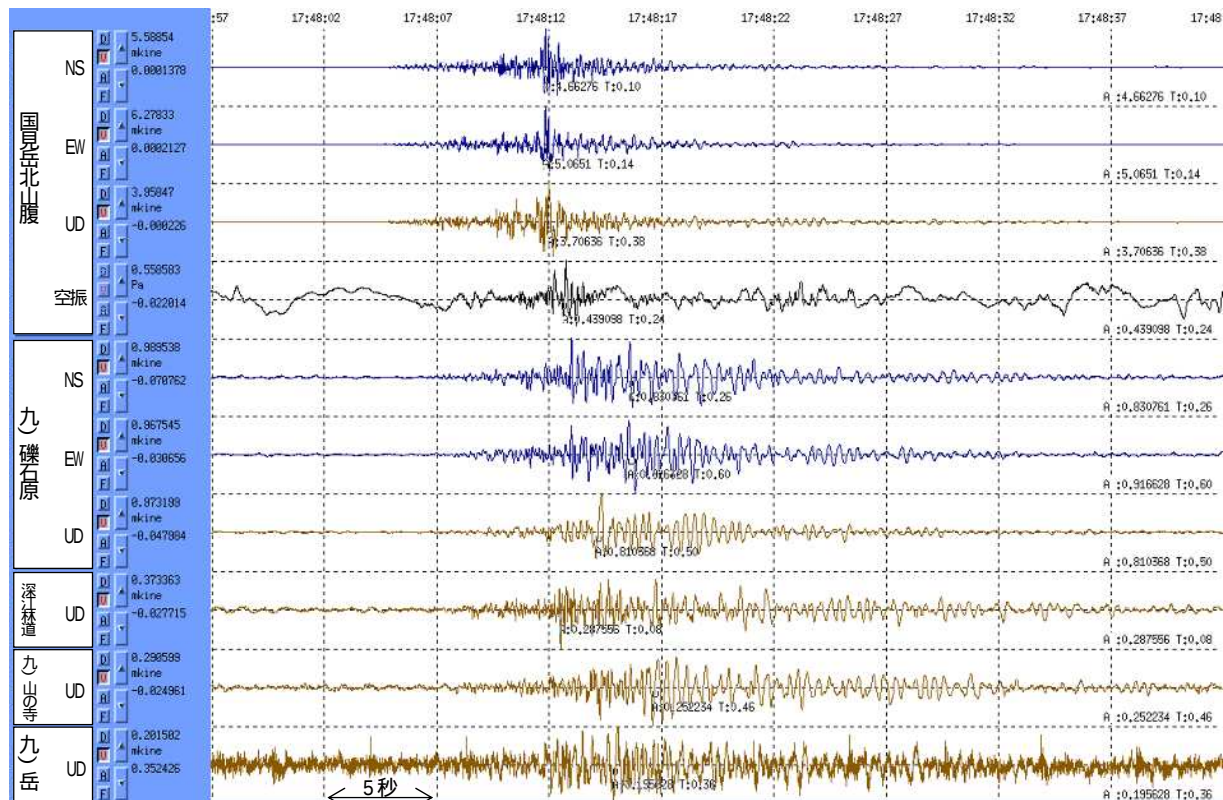
小さな白丸(○)は気象庁、小さな黒丸(●)は気象庁以外の機関の観測点位置を示す。

(国): 国土地理院 (九地): 九州地方整備局 (九): 九州大学 (防): 防災科学技術研究所
この地図の作成には、国土地理院発行の『数値地図 50mメッシュ(標高)』を使用した。



第8-1図 雲仙岳 9月4日に観測された震動波形

(国見岳北山腹観測点UD成分、9月4日17時34分~17時58分)

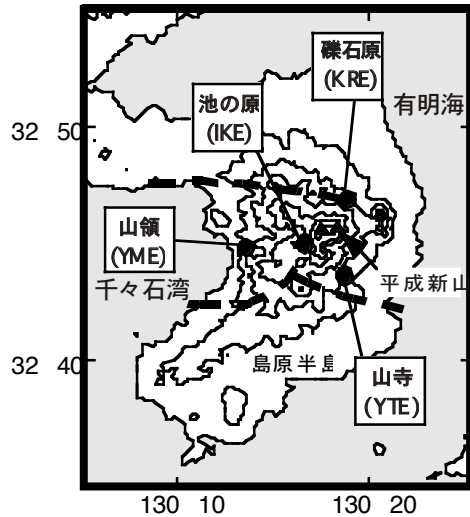


第8-2図 雲仙岳 9月4日17時48分に観測された震動波形

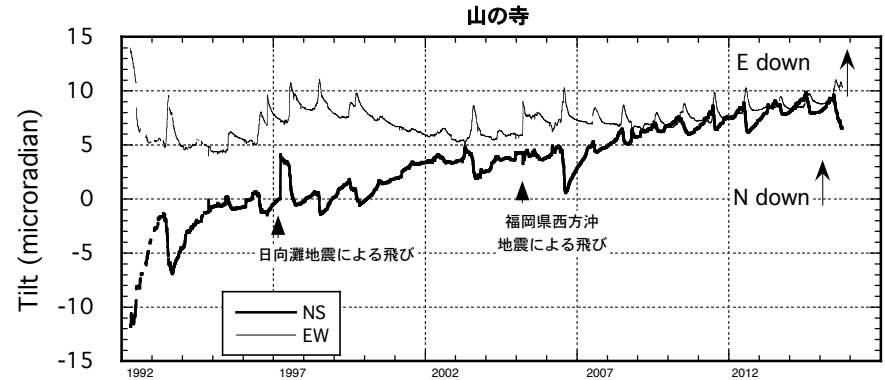
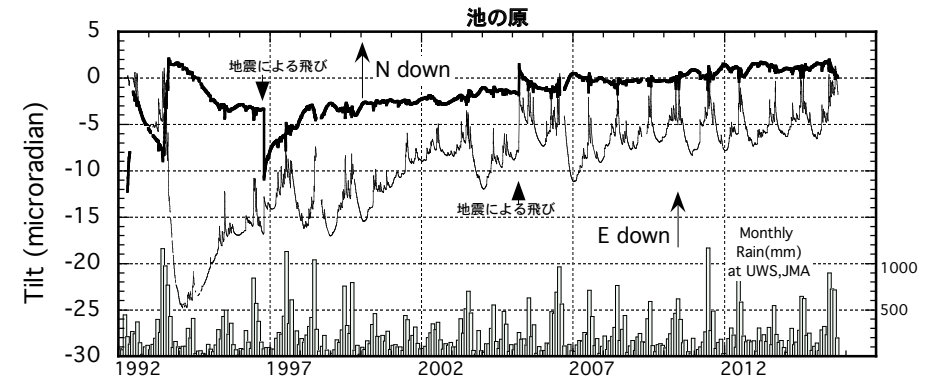
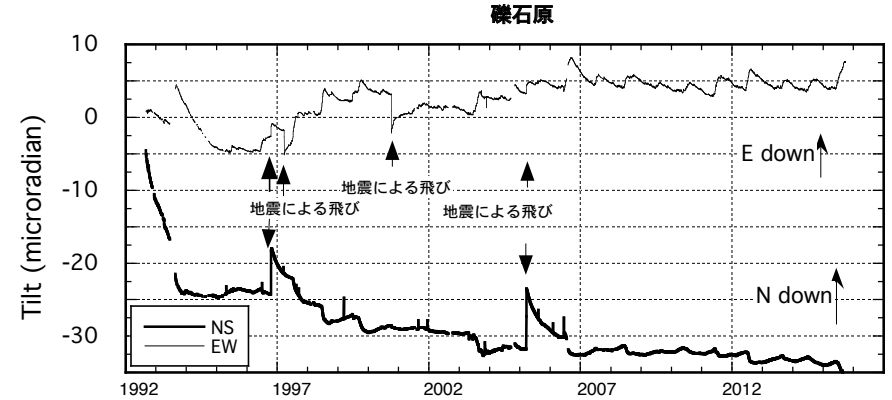
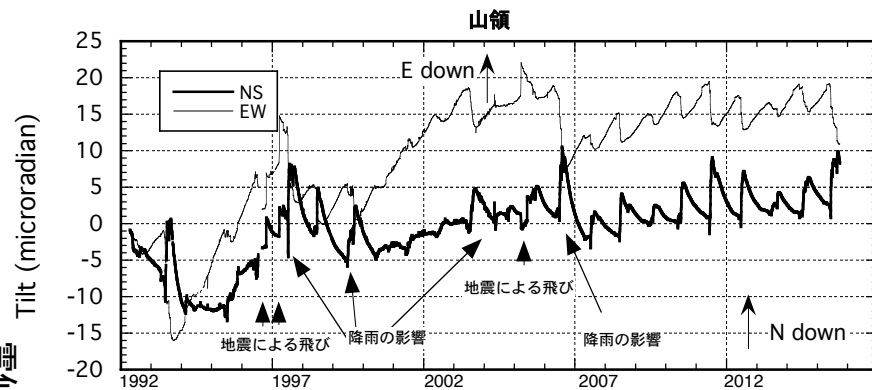
9月4日に図のような震動が観測された。国見岳北山腹の到達時刻が最も早く、振幅も大きい。詳細は不明である。

雲仙岳周辺における傾斜変動

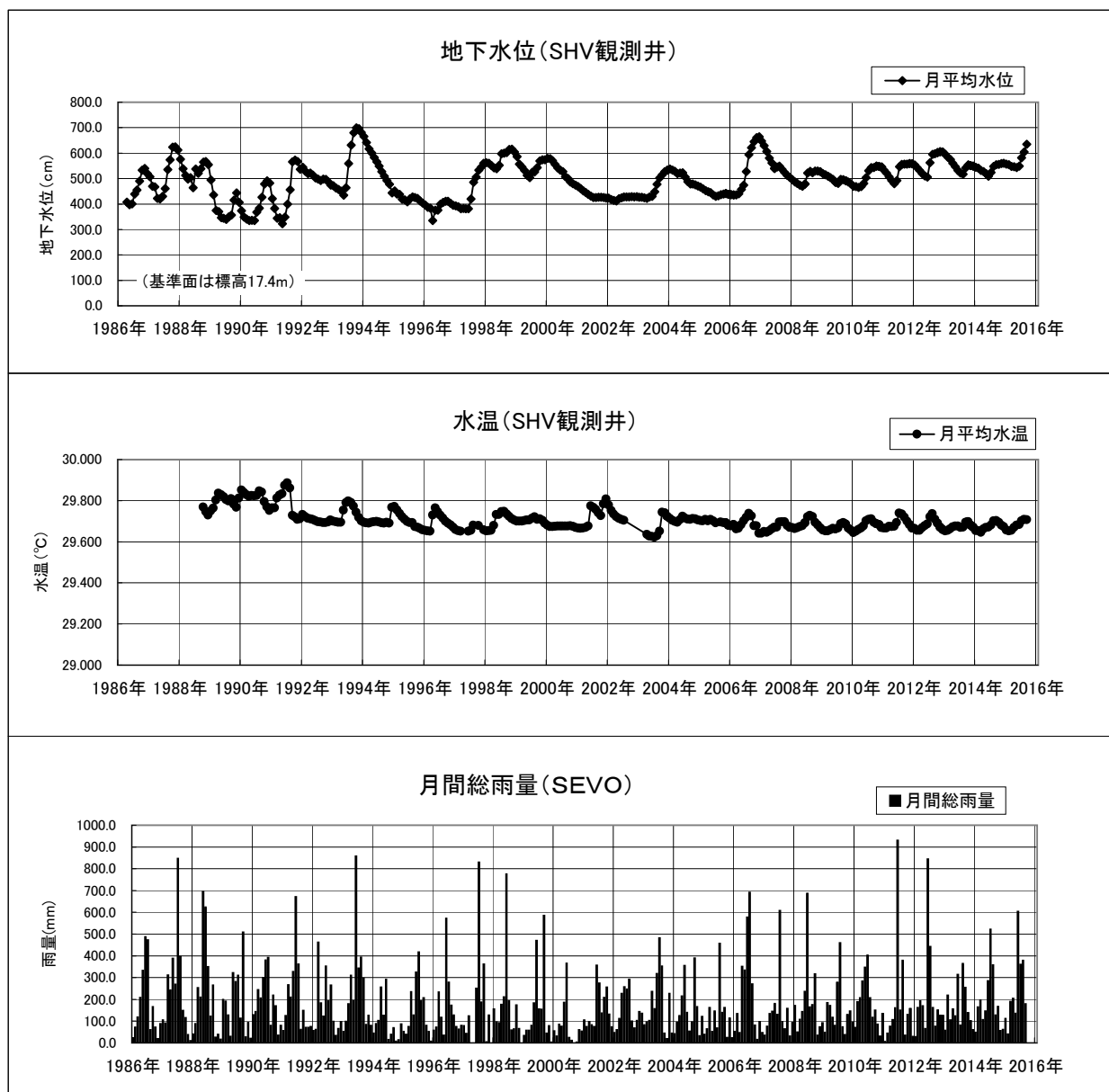
九州大学地震火山観測研究センター



降雨の影響が多少見られるが、特に火山活動に関連すると思われる変動はない。



雲仙火山における地下水観測



地震火山観測研究センター・島原観測所温泉観測井(SHV観測井)における月平均水位・月平均水温・月間総雨量の観測結果

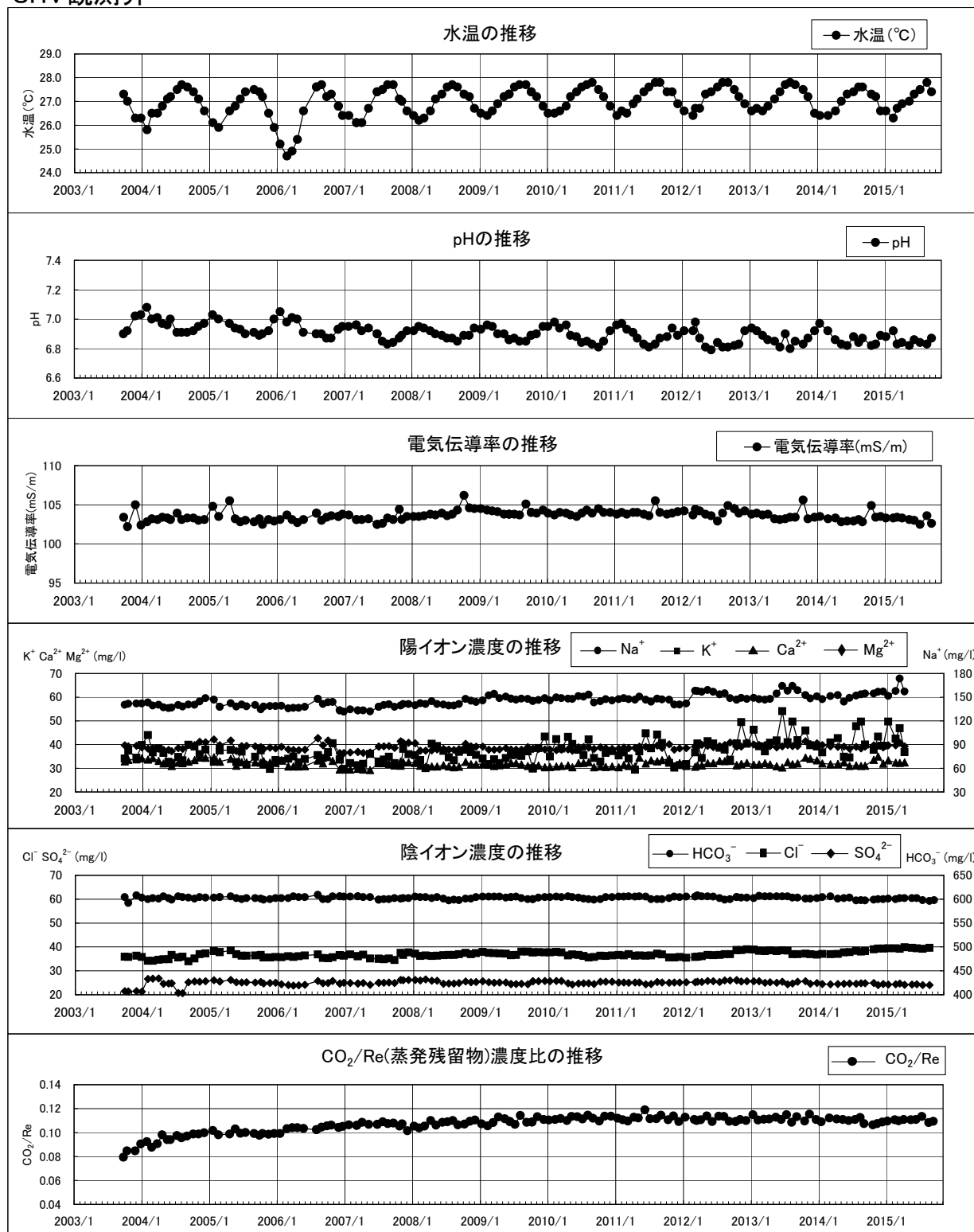
(2005年5月以降の月間総雨量は気象庁アメダス島原を使用)

地震火山観測研究センター・島原観測所温泉観測井(SHV観測井)は、構内の標高47.9mの場所に設置された深さ365mの坑井である。全長にわたり、ケーシングパイプが挿入されており、255～355m間にはストレーナーが配置されている。水圧式水位計を地表から30.5m、水晶温度計を329mの深さに設置している。

当観測井の地下水水位は、時差2ヶ月・半減期12ヶ月の実効雨量(雲仙岳)と正の相関が強いことがわかっている(回帰期間:1998年1月～1999年12月)。

雲仙火山における温泉観測

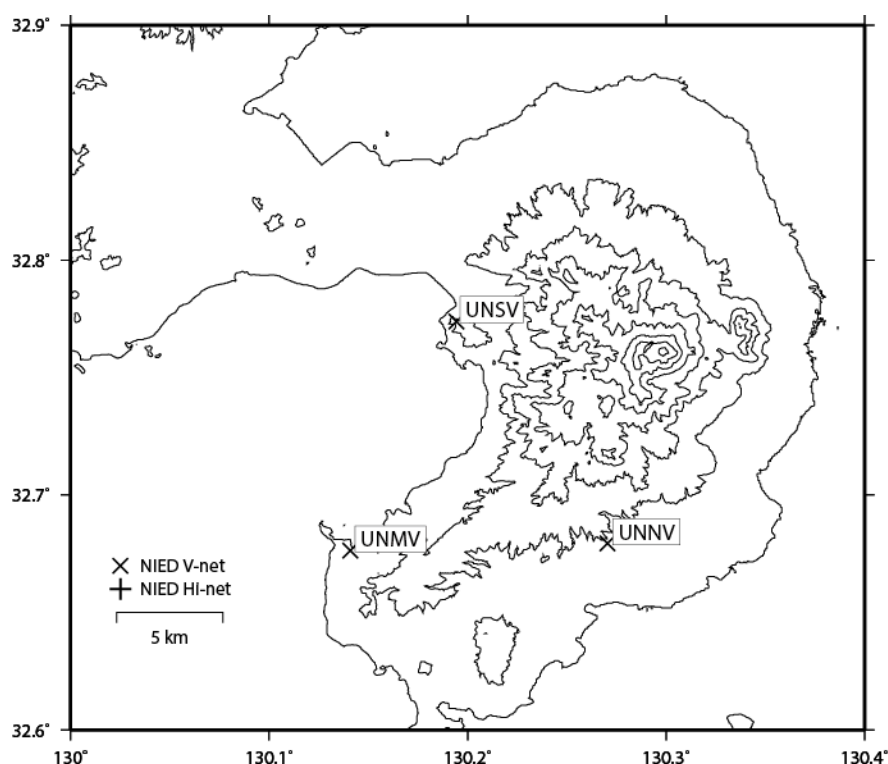
SHV観測井



地震火山観測研究センター・島原観測所温泉観測井(SHV観測井)の水温・pH・電気伝導率・主要化学成分濃度・ CO_2/Re (蒸発残留物)濃度比の推移

2003年9月の観測再開以降、火山活動に起因すると思われる顕著な変動はない。

雲仙岳の火山活動について



この地図の作成にあたっては、国土地理院発行の
数値地図 50mメッシュ（標高）を使用した。

UNNV=地震計（短周期・広帯域）、傾斜計、気圧計、温度計、雨量計、GNSS

UNSV=地震計（短周期・広帯域）、傾斜計、気圧計、温度計、雨量計、GNSS

UNMV=地震計（短周期・広帯域）、傾斜計、気圧計、温度計、雨量計、GNSS

資料概要

○ 地殻変動

火山活動に関連するような顕著な地殻変動は認められなかった。

雲仙岳の傾斜変動 (2014/07/15~2015/08/31)

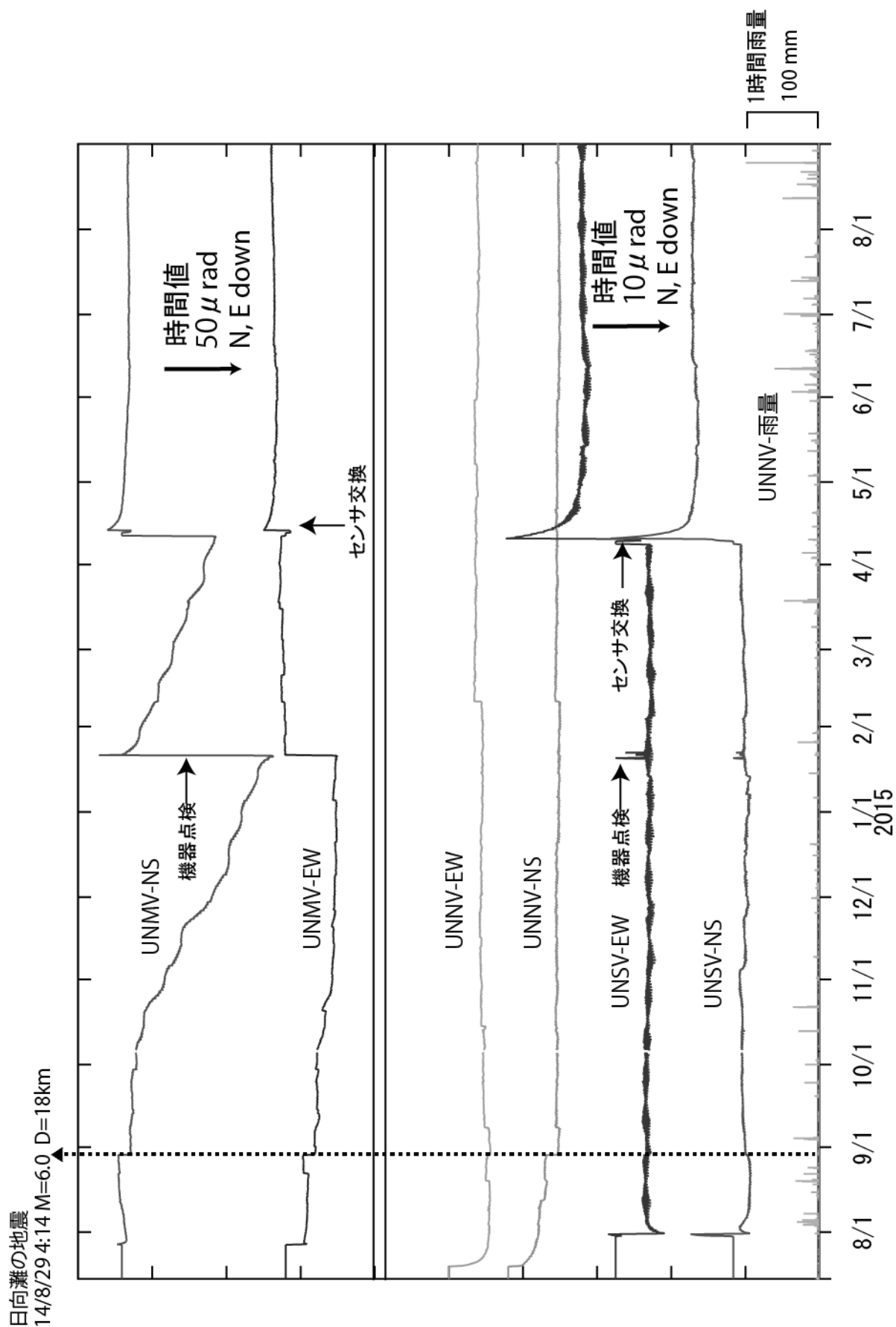


図 1 雲仙岳の傾斜変動

雲仙岳

防災科学技術研究所 GNSS 観測点及び国土地理院 GEONET で得られた、
2015 年 4 月 30 日－2015 年 8 月 31 日の地殻変動【愛野 (0693) 固定】

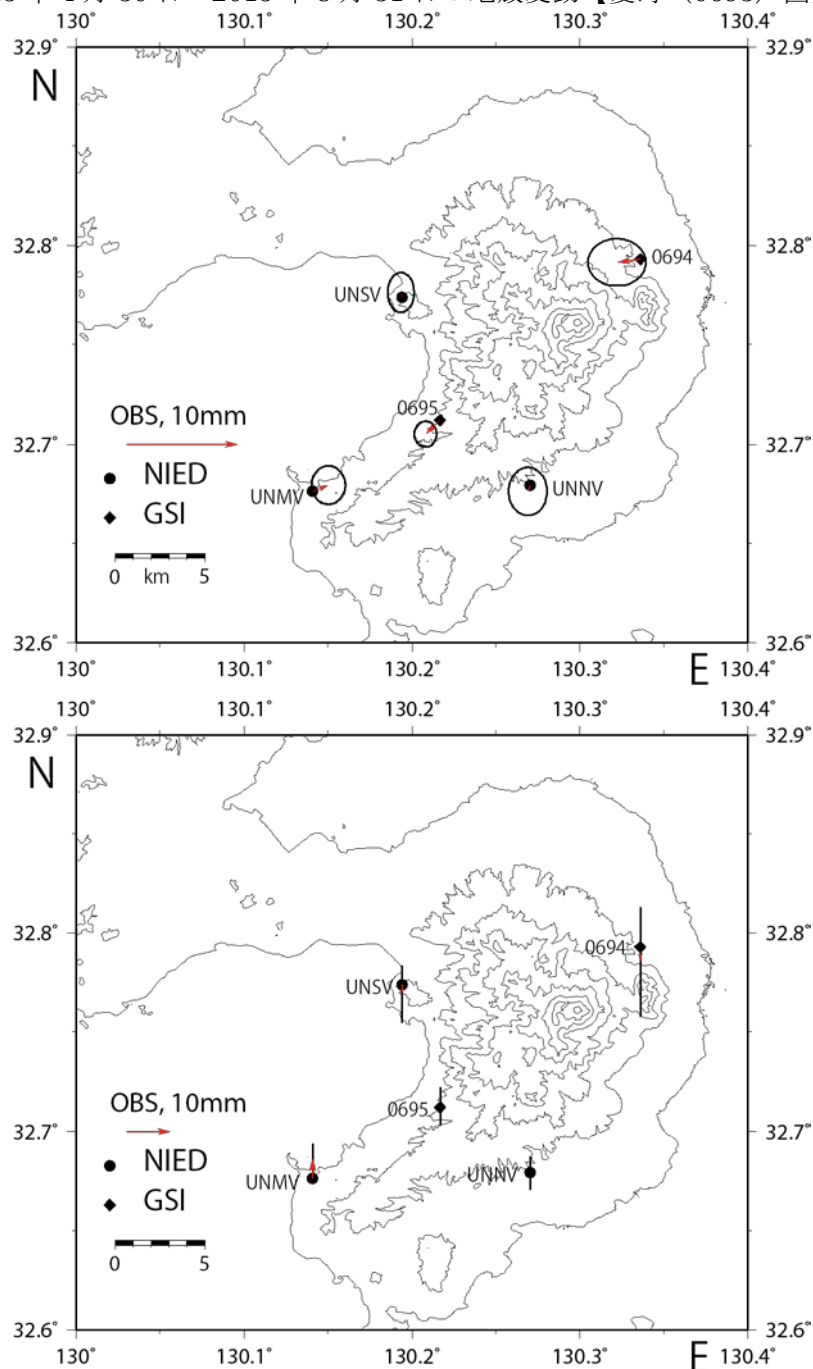


図 2. 雲仙岳の GNSS 解析結果ベクトル図.

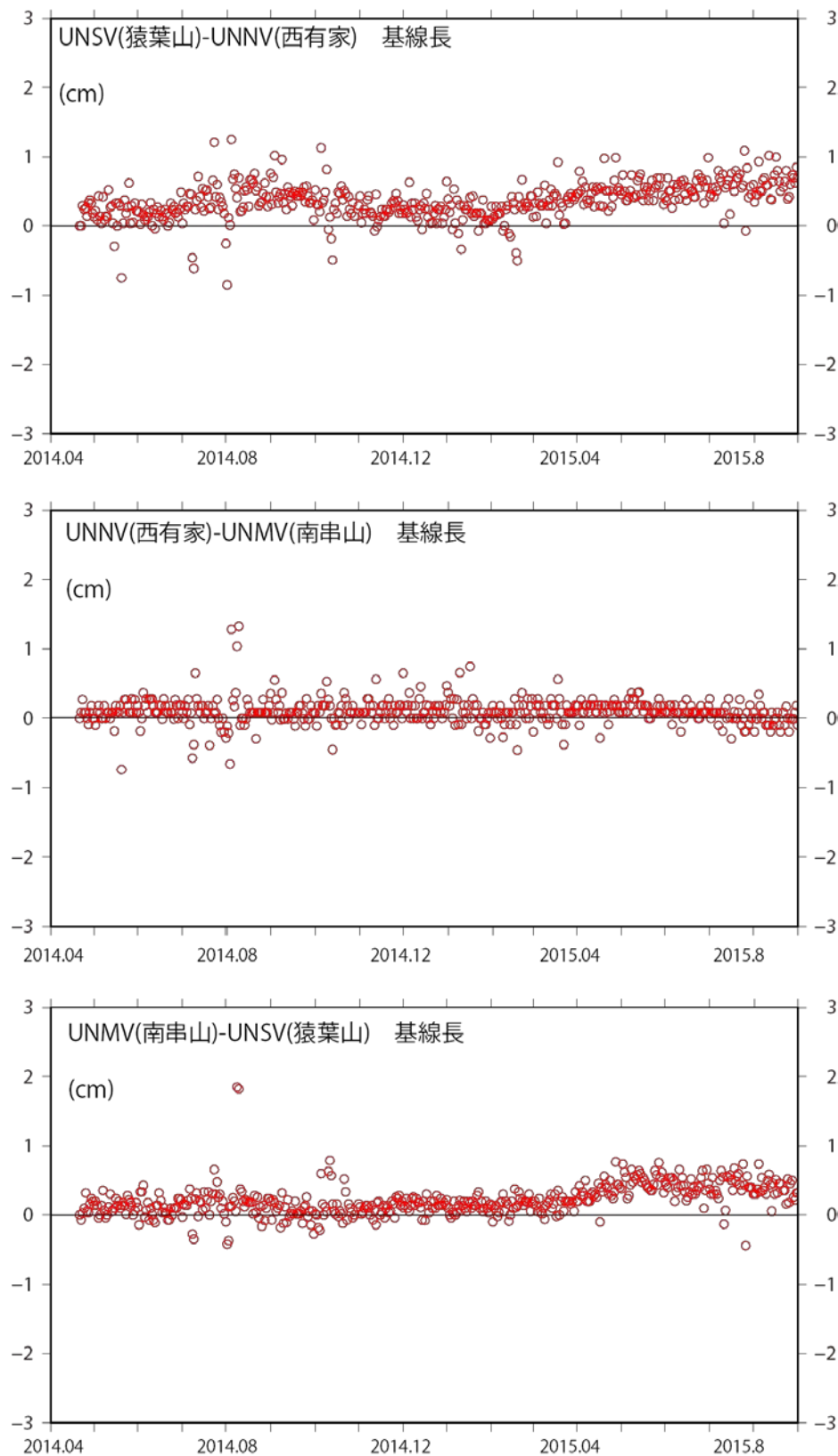


図 3. 防災科研 3 観測点(西有家, 猿葉山, 南串山)間の基線長変化.

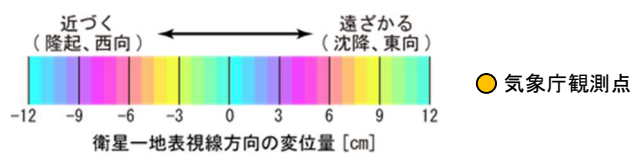
表1 GNSS観測履歴

観測点番号	観測点名	図中記号	日付	保守内容
	雲仙岳猿葉山 (UNSV)		2014/2/27	2周波観測開始
	雲仙岳西有家 (UNNV)		2014/2/26	2周波観測開始
	雲仙岳南串山 (UNMV)		2014/2/26	2周波観測開始

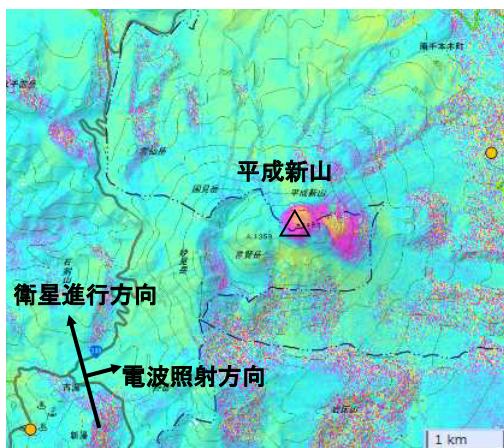
雲仙岳の SAR 干渉解析結果について

	(a)	(b)
衛星名	ALOS-2	ALOS-2
観測日時	2014/09/17 2015/06/24 00:18 頃 (280 日間)	2015/04/01 2015/06/24 00:18 頃 (84 日間)
衛星進行方向	北行	北行
電波照射方向	右	右
観測モード*	U-U	U-U
入射角(中心)	39.7°	39.7°
偏波	HH	HH
垂直基線長	-30 m	-20 m
使用 DEM	GSI10m DEHM Japan (飛田, 2009)	GSI10m DEHM Japan (飛田, 2009)

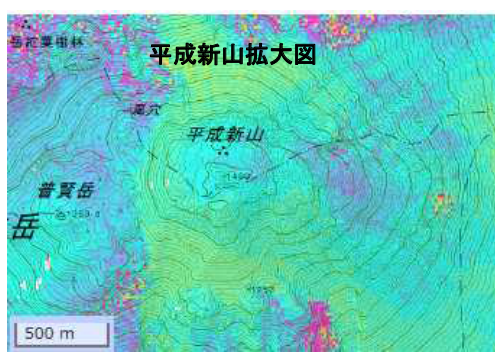
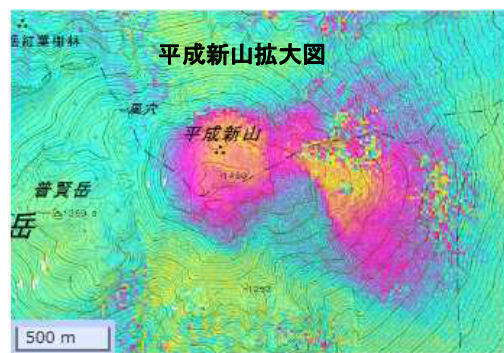
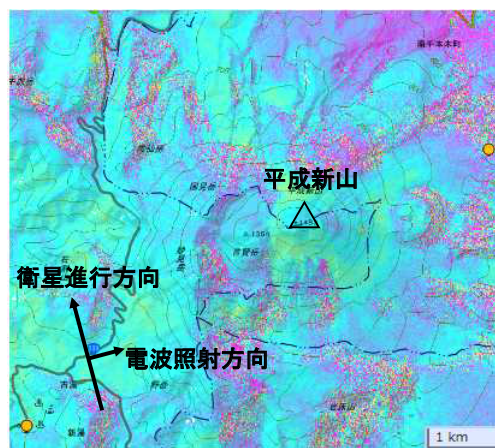
*U: 高分解能(3m)モード



(a) 2014/09/17-2015/06/24



(b) 2015/04/01-2015/06/24



背景: 地理院地図 標準地図

判読)

- ・ (a)では平成新山で衛星から遠ざかる変動が見られる。
- ・ (b)ではノイズレベルを超える変動は見られない。

解析: 国土地理院 原初データ所有: JAXA

雲仙岳

若尊

○ 最近の活動について

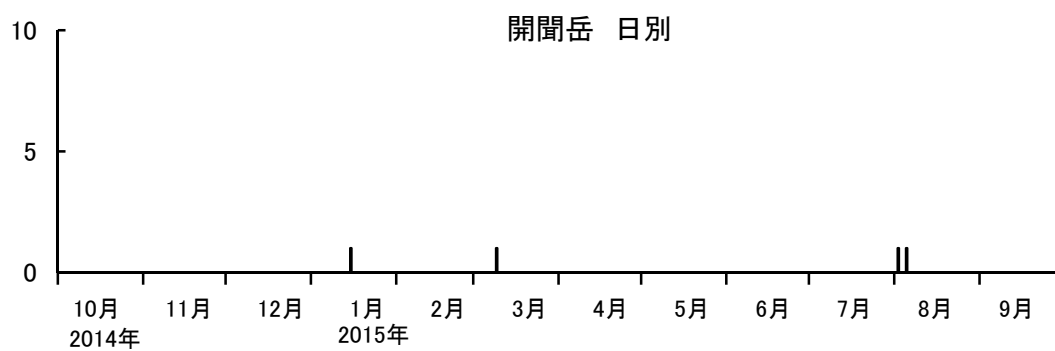
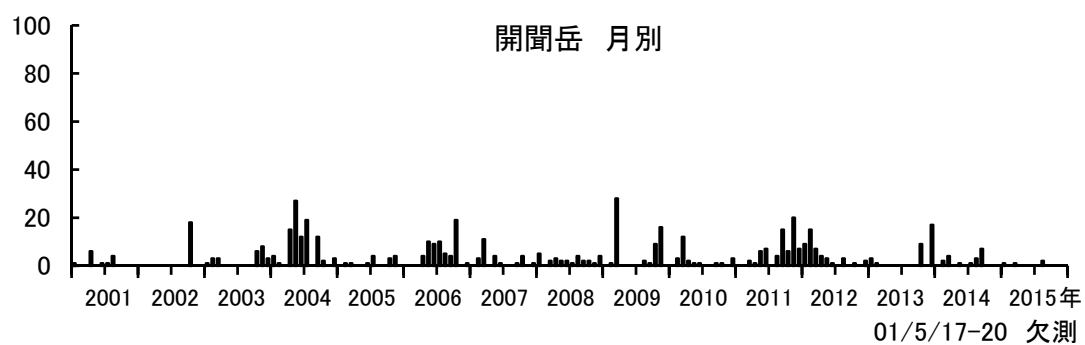
年月日	調査機関等	活 動 状 況
2015/ 7 /30	海 上 保 安 庁	特異事象は認められなかった。

山川

○ 最近の活動について

年月日	調査機関等	活 動 状 況
2015/ 7 /30	海 上 保 安 庁	特異事象は認められなかった。

開聞岳における地震活動の推移



開聞岳における火山性地震の発生回数
(2015年9月30日まで)

開聞岳

開聞岳

○ 最近の活動について

年月日	調査機関等	活 動 状 況
2015/ 7 /30	海 上 保 安 庁	特異事象は認められなかった。

薩 摩 硫 黄 島 (2015 年 9 月 30 日現在)

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められない。

硫黄岳火口では、噴煙活動が続いており、火口内では火山灰等の噴出する可能性がある。また、火口付近では火山ガスに注意が必要である。

噴火予報（噴火警戒レベル 1、活火山であることに留意）の予報事項に変更はない。

○ 概況（2015 年 5 月～9 月 30 日）

・噴煙など表面現象の活動（第 1 図、第 2 図-①⑤）

硫黄岳山頂火口では、白色の噴煙が最高で火口縁上 1300m まで上がった。

同火口では、夜間に高感度カメラで火映を時々観測した。

・地震、微動活動の状況（第 2 図-②③⑥⑦、第 5 図）

火山性地震は少ない状態で経過した。

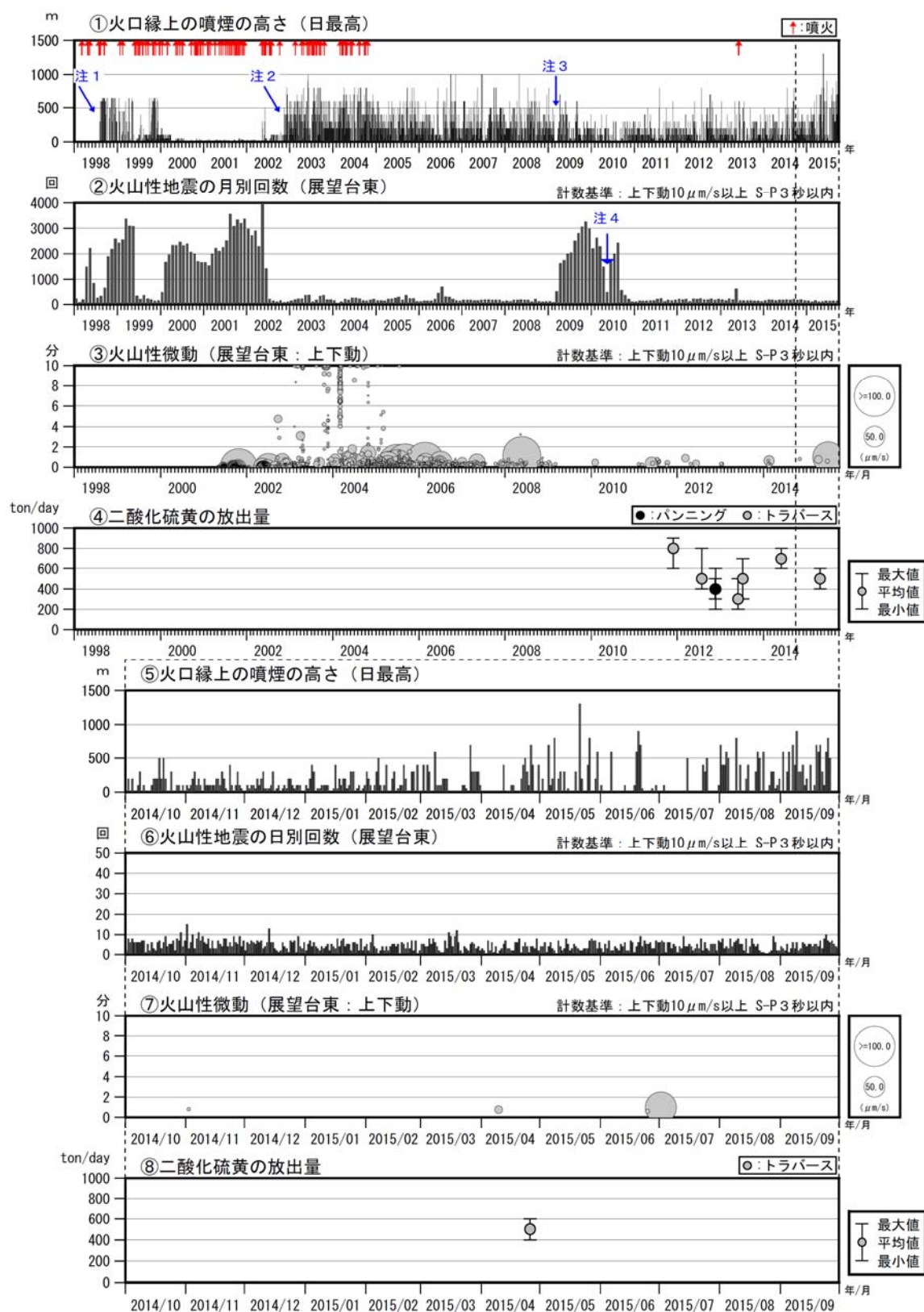
7 月 2 日に、継続時間が約 1 分の振幅のやや大きな火山性微動を 1 回観測したほか、6 月にも継続時間の短い振幅の小さな火山性微動が発生した。

・地殻変動の状況（第 3 図、第 4 図）

GNSS による地殻変動観測では、火山活動に伴う特段の変化は認められなかった。



第 1 図 薩摩硫黄島 噴煙の状況（2015 年 8 月 23 日、岩ノ上遠望カメラによる）



第2図 薩摩硫黄島 火山活動経過図（1998年1月1日～2015年9月30日）

＜2015年5月1日～9月30日の状況＞

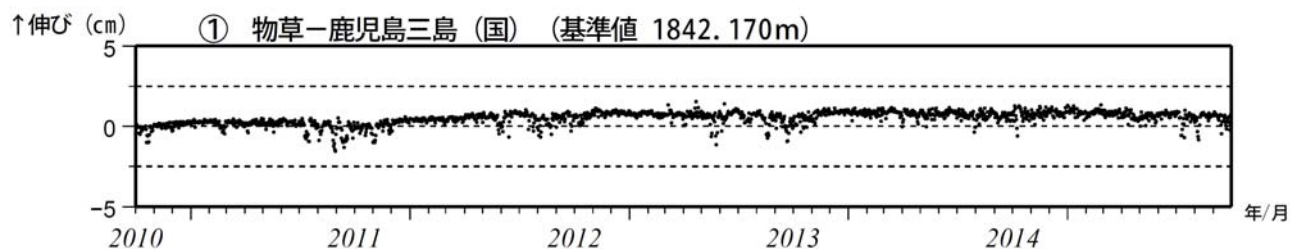
- ・白色の噴煙が最高で火口縁上1300mまで上がった。
- ・火山性地震は少ない状態で経過した。
- ・今期間、火山ガス観測は実施していない。

注1 三島村役場硫黄島出張所から気象庁へ通報開始。

注2 気象庁が設置した監視カメラによる観測開始。

注3 遠望カメラ障害のため噴煙は不明。

注4 地震計障害のため火山性地震の回数が不明の期間がある。



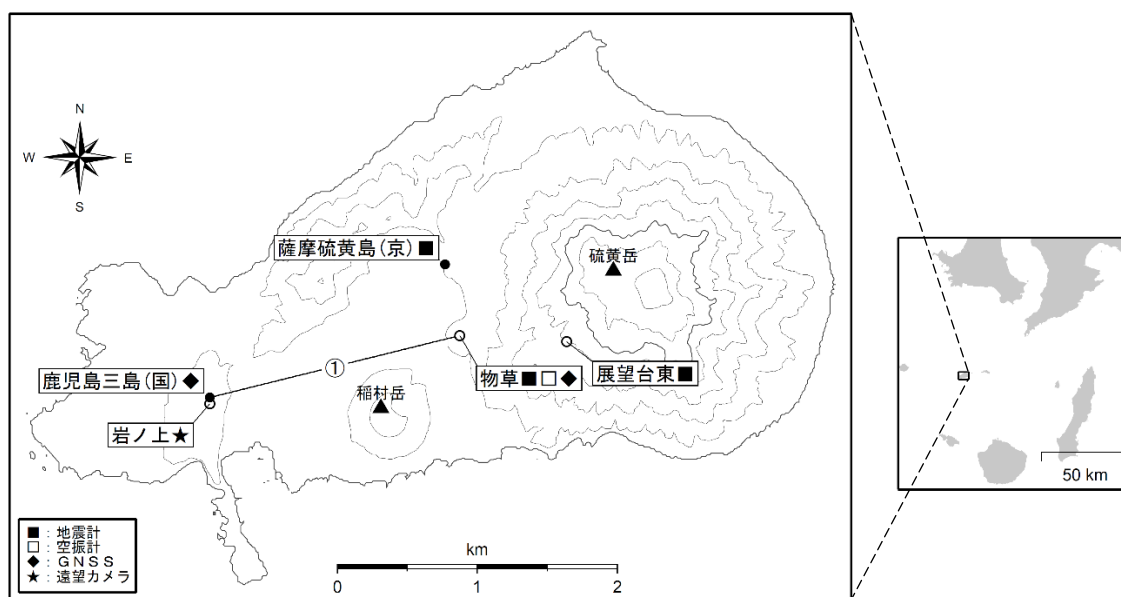
第 3 図 薩摩硫黄島 GNSS連続観測による基線長変化 (2010 年 10 月 1 日～2015 年 9 月 30 日)

火山活動によると考えられる変化は認められなかった。

この基線は第 4 図の①に対応している。

解析に際しては対流圏補正と電離層補正を行っている。

(国)：国土地理院

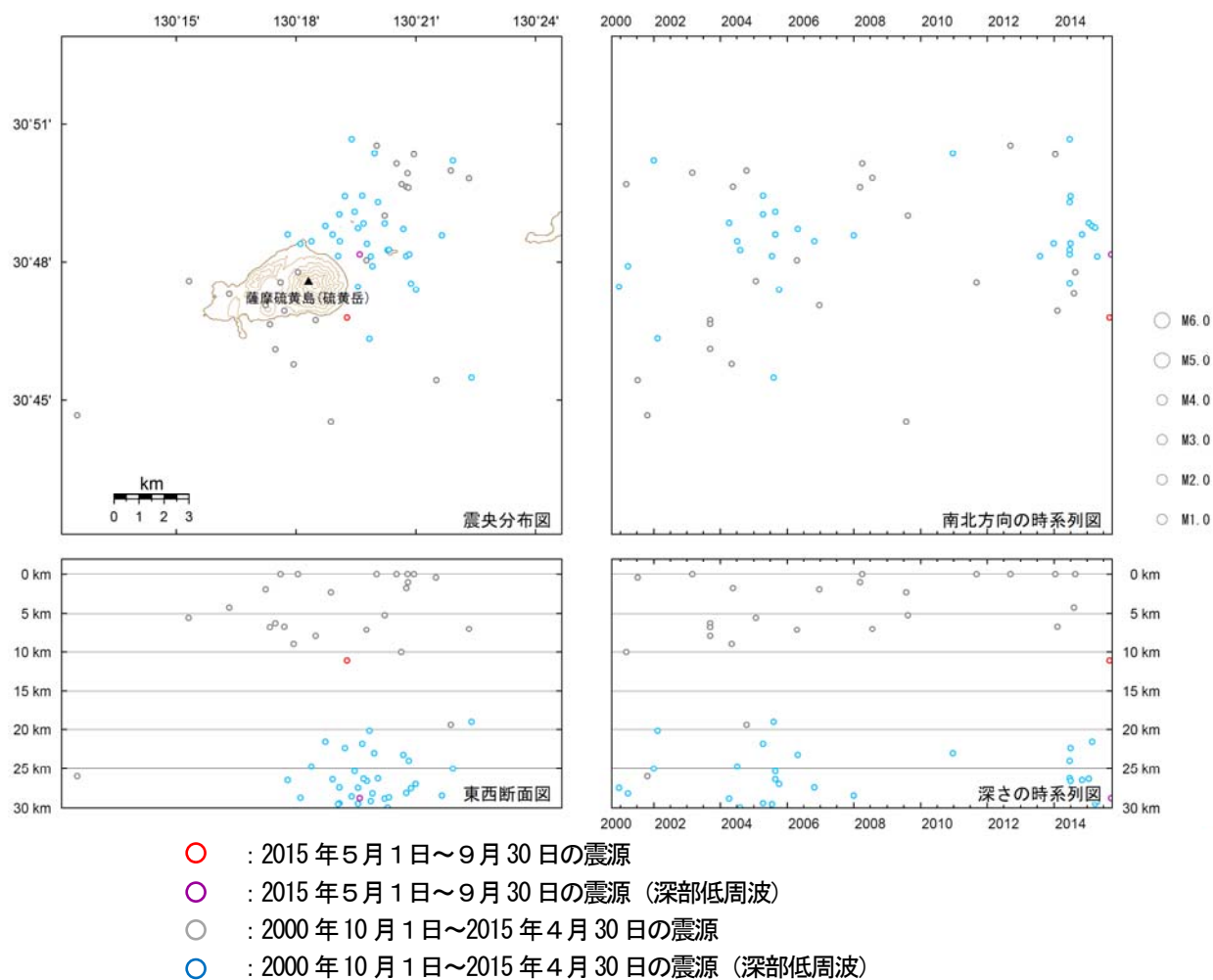


第 4 図 薩摩硫黄島 観測点配置図

小さな白丸 (○) は気象庁の観測点位置、黒丸 (●) は気象庁以外の観測点位置を示している。

(京)：京都大学、(国)：国土地理院

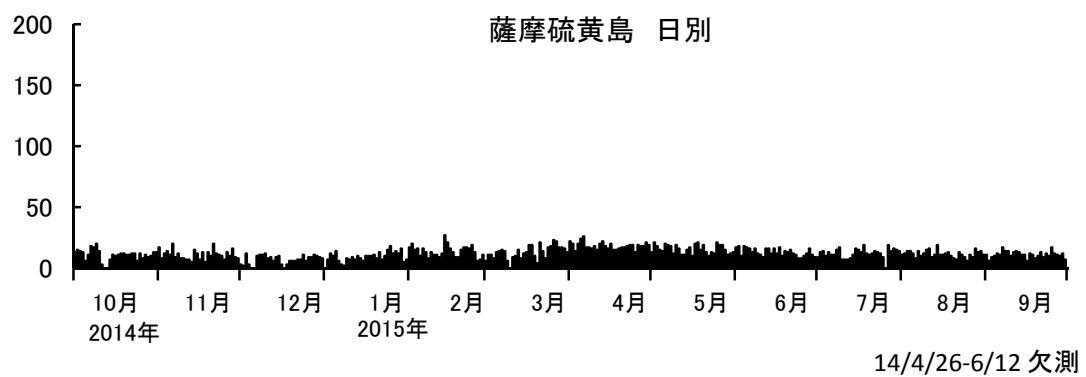
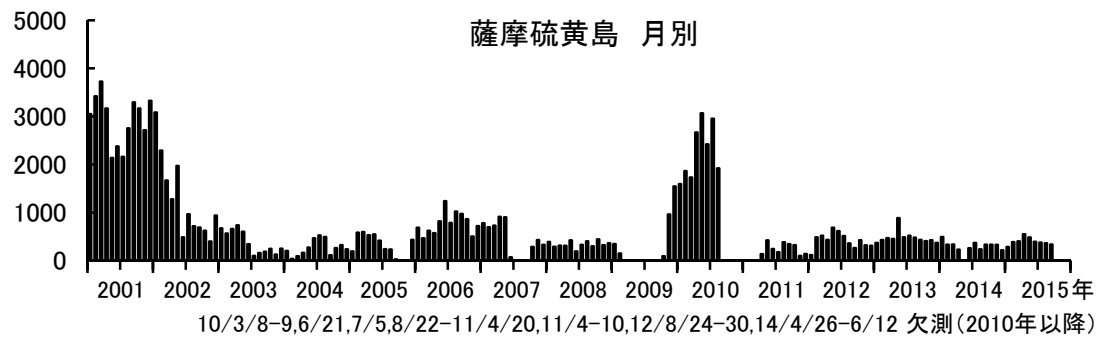
この地図の作成には、国土地理院発行の『数値地図 10mメッシュ (火山標高)』を使用した。



第 5 図 薩摩硫黄島 一元化震源による震源分布図（2000 年 10 月 1 日～2015 年 9 月 30 日）

この地図の作成には、国土地理院発行の『数値地図 50mメッシュ（標高）』を使用した。

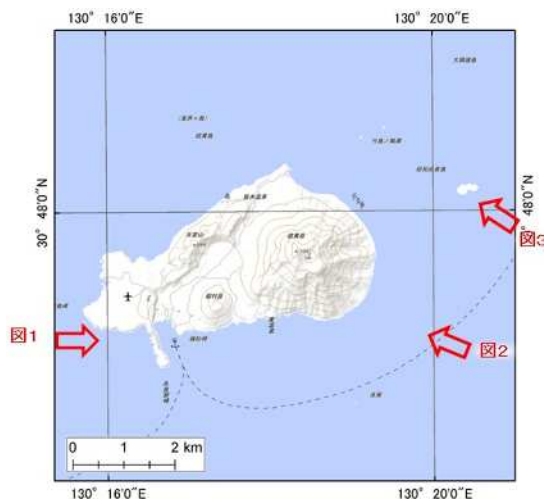
薩摩硫黄島における地震活動の推移



薩摩硫黄島における火山性地震の発生回数
(2015年9月30日まで)

薩摩硫黄島

薩摩硫黄島



地形図は国土地理院HPの地理院地図を使用した。

○ 最近の活動について

年月日	調査機関等	活 動 状 況
2015/ 7 / 30	海 上 保 安 庁	硫黄岳火口及び山頂付近は、雲のため確認できなかった。 天狗鼻の東側及び東温泉付近の海岸線からそれぞれ黄緑色の変色水が南西方向へ長さ約3,000mで分布していた。さらに稲村岳南岸付近、磯松崎東側、硫黄島港口の3ヶ所から沖合へ長さ約500mで褐色の変色水域が分布していた（図1）。 また、平家城付近から青白色の変色水が幅約200～400mの帯状で南東方向へ約3,000m、穴之浜付近海岸線に沿って黄緑色の変色水が幅約500mの帯状で南方向へそれぞれ分布していた（図2）。 昭和硫黄島周辺にも、ごく薄い黄緑色の変色水域が分布していた（図3）。

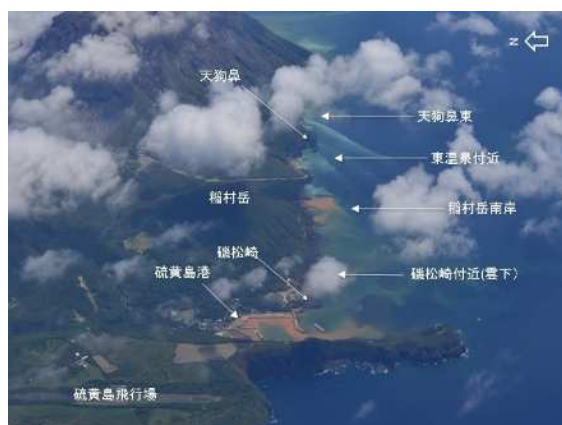


図1 薩摩硫黄島南岸の変色水域

2015/ 7 / 30 11:31 撮影



図2 薩摩硫黄島東岸の変色水域

2015/ 7 / 30 11:26 撮影

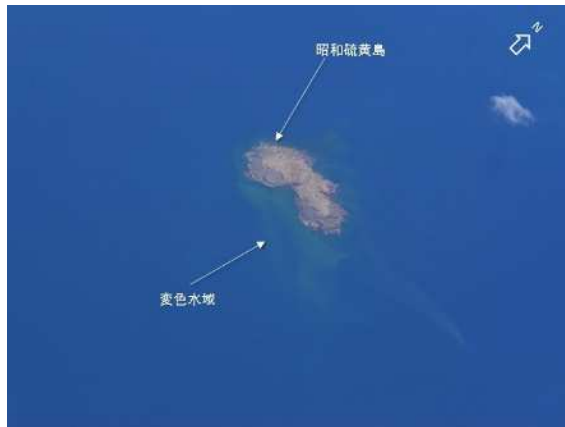
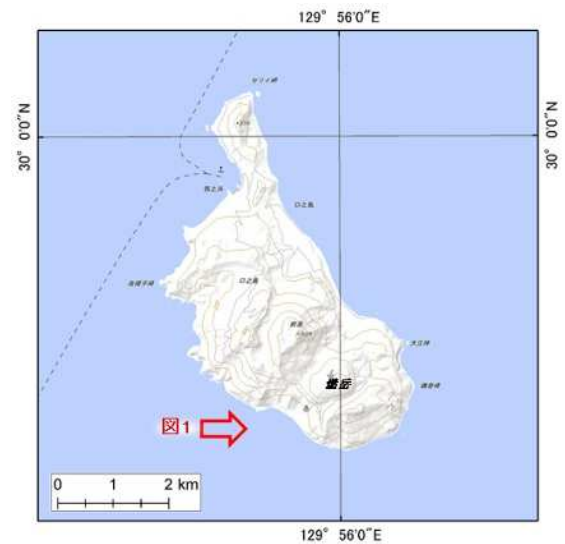


図 3 昭 and硫黄島

2015/ 7 / 30 11:35 撮影

口之島



○ 最近の活動について

地形図は国土地理院HPの地理院地図を使用した。

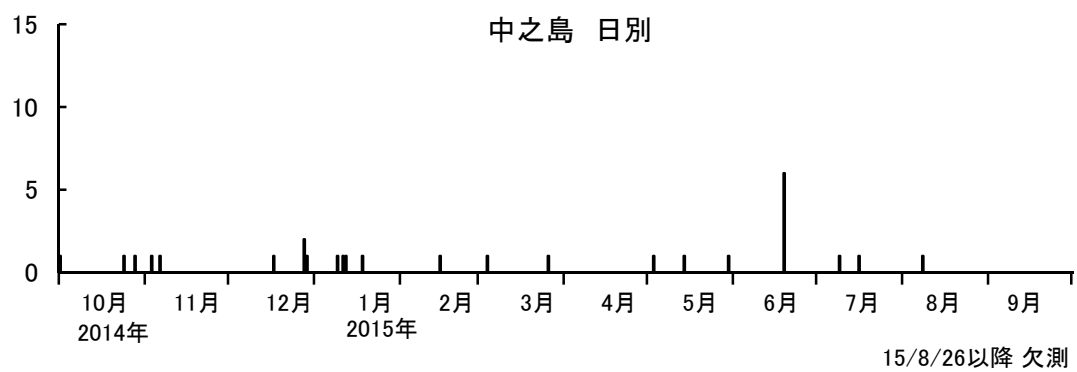
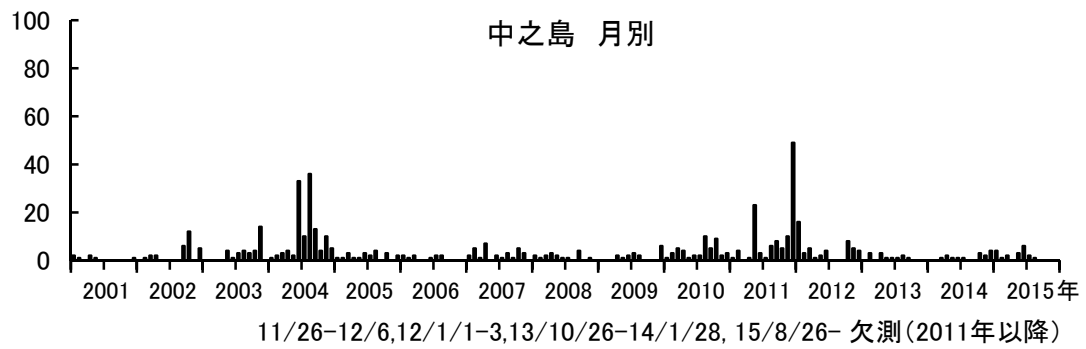
年月日	調査機関等	活動状況
2015/ 7 /29	海上保安庁	燃岳山頂付近の噴気孔には、噴気を認められなかった。 口之島南側の海岸線から薄い褐色の変色水域が分布していた（図1）。



図1 口之島南側海岸の変色水域

2015/ 7 /29 14:26撮影

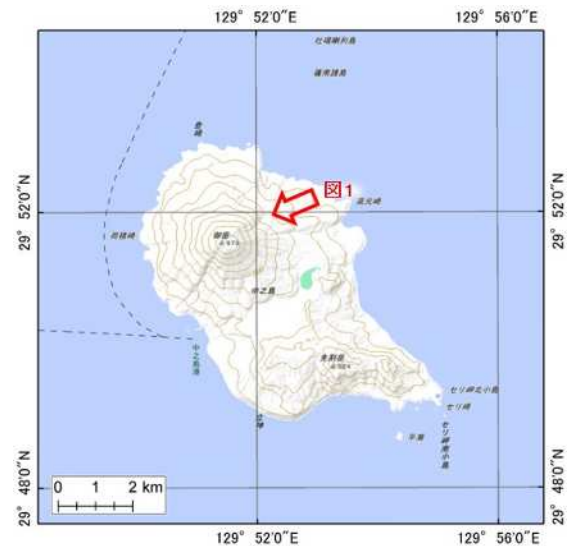
中之島における地震活動の推移



中之島における火山性地震の発生回数
(2015年9月30日まで)

中之島

中之島



地形図は国土地理院 H P の地理院地図を使用した。

○ 最近の活動について

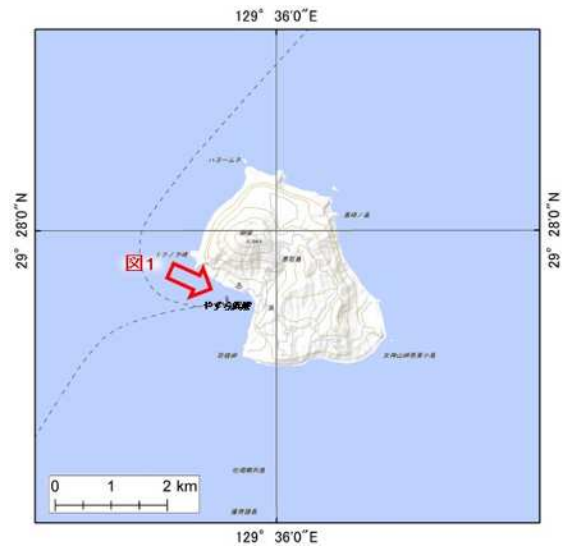
年月日	調査機関等	活 動 状 況
2015/ 7 /29	海 上 保 安 庁	御岳火口内の 1 カ所及び御岳北東斜面の噴気孔付近の 2 ヶ所からそれぞれ弱い白色の噴気を認めた（図 1）。



図 1 御岳火口内及び北東斜面噴気孔の噴気

2015/ 7 /29 14:18 撮影

悪石島



地形図は国土地理院ＨＰの地理院地図を使用した．

○ 最近の活動について

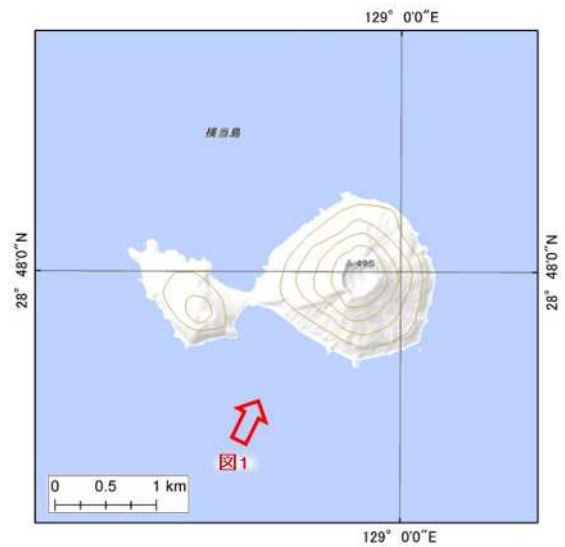
年月日	調査機関等	活 動 状 況
2015/ 7 /29	海 上 保 安 庁	やすら浜港内に黄緑色の変色水域が分布していた。（図 1 ）。



図 1 やすら浜港内の変色水域

2015/ 7 /29 13:10 撮影

横当島



地形図は国土地理院ＨＰの地理院地図を使用した。

○ 最近の活動について

年月日	調査機関等	活 動 状 況
2015/ 7 /29	海 上 保 安 庁	横当島中央部の南岸から南東方向へ長い帯状の幅約 30 m、長さ約 1,000mで黄緑色の変色水域に分布していた（図 1）。火口付近に噴気・噴煙等を認めず。



図 1 横当島南岸からの変色水域

2015/ 7 /29 12:24 撮影

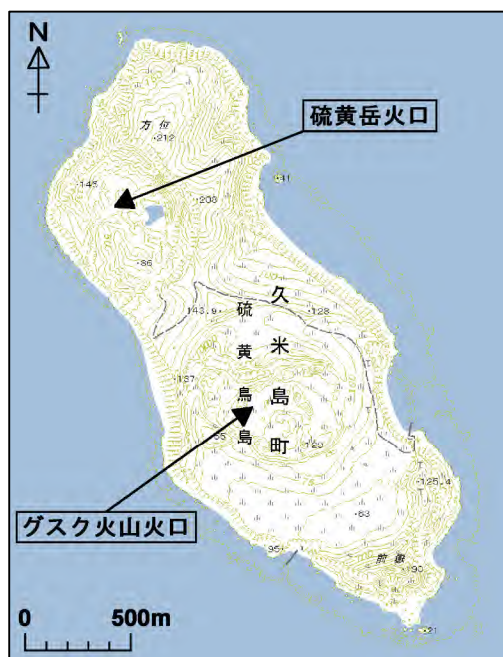
硫黄鳥島 (2015 年 9 月 30 日現在)

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められない。

噴火予報（活火山であることに留意）の予報事項に変更はない。

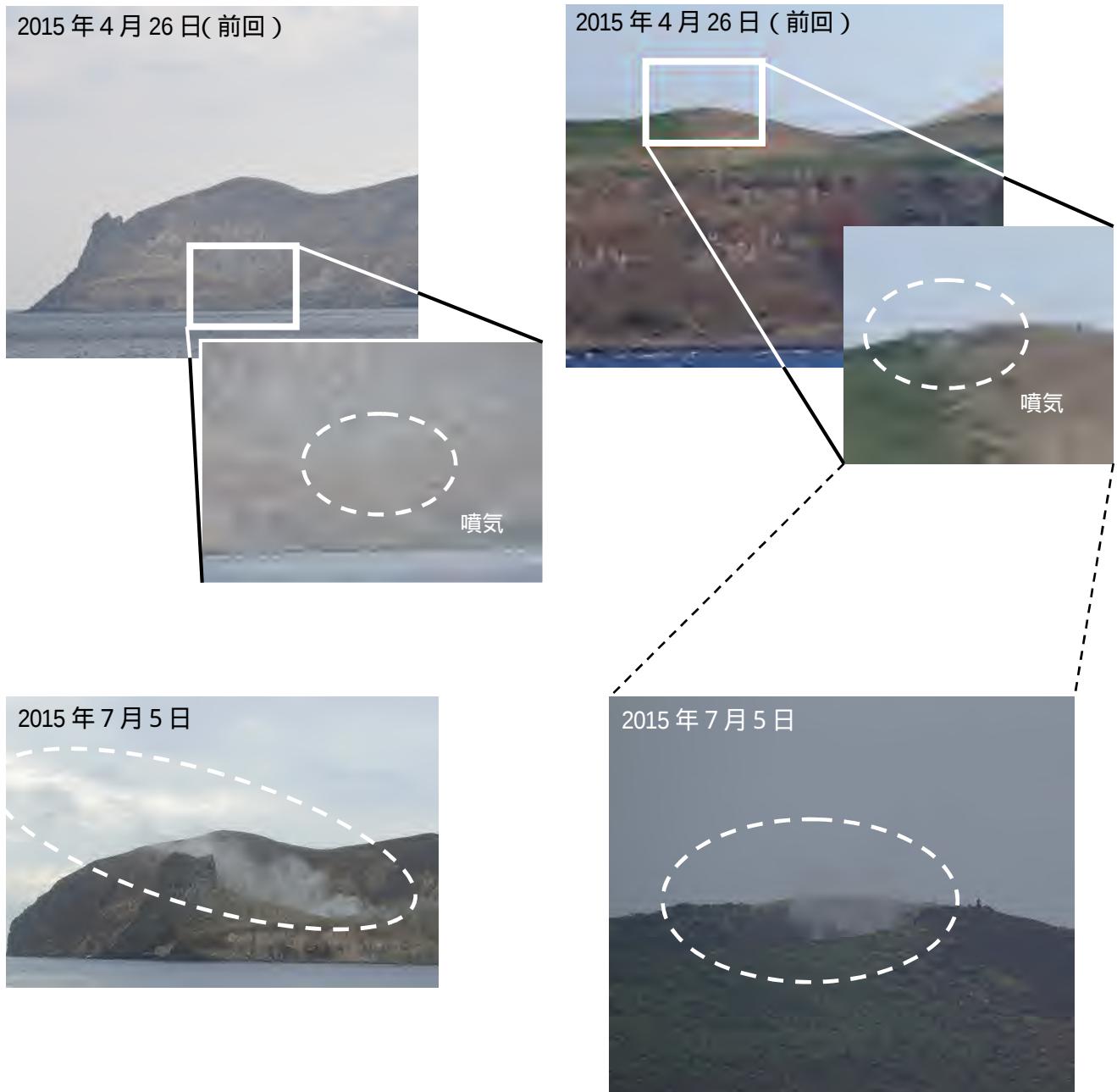
○ 活動概況（2015 年 5 月～ 9 月 30 日）

7 月 5 日に気象庁地球環境・海洋部が実施した海上からの観測では、島の北側に位置する硫黄岳火口、及び島の中央部に位置するグスク火山火口では前回（4 月 26 日）の観測時に比べやや多めの噴気を観測した。硫黄鳥島周辺に変色水は観測されなかった。



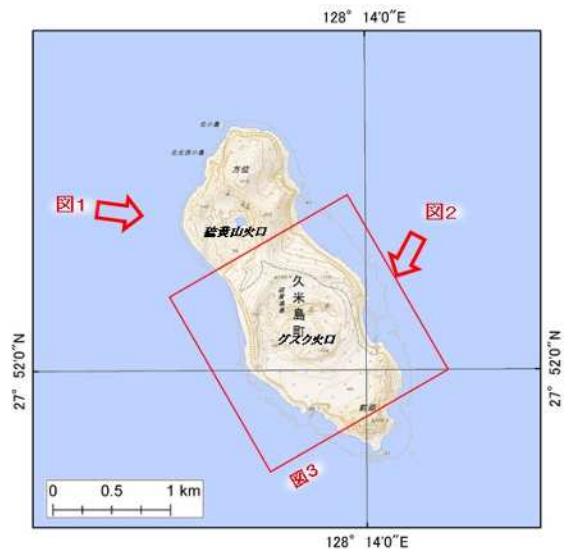
第 1 図 硫黄鳥島 火口位置図

この図の作成には国土地理院発行の 2 万 5 千分の 1 地形図(硫黄鳥島)を複製した。



第 2 図 火口の状況（火口南西側から撮影）
左：硫黄岳火口（南西側から撮影） 右：グスク火山火口（東側から撮影）
上から 4 月 26 日、7 月 5 日の観測（気象庁地球環境・海洋部）

硫黄鳥島



地形図は国土地理院 H P の地理院地図を使用した。

。 最近の活動について

年月日	調査機関等	活 動 状 況
2015/ 6 /26	第 十 一 管 区 海 上 保 安 本 部	グスク火山北壁に白色噴気が認められた。 硫黄岳火口内に水蒸気が確認された。また、硫黄岳火口の西側には、青白色の変色水が海岸線に沿って長さ約 500m にわたって認められた。
2015/ 7 /28	海 上 保 安 庁	硫黄岳火口内に水蒸気を確認した。グスク火口の噴気は認められなかった。 硫黄岳火口西岸の 3 ヶ所から黄緑色の変色水が流出していた（図 1）。また、グスク火口の東岸に黄緑色の変色水が分布していた（図 2）。この東岸の変色水は熱計測の結果、周辺の付近海水温度と比べて 0.7 高温であった（図 3）。



図 1 硫黄岳火口西岸の変色水域

2015/ 7 /29 10:54 撮影



図 2 グスク火口東岸の変色水域

2015/ 7 /29 12:07 撮影

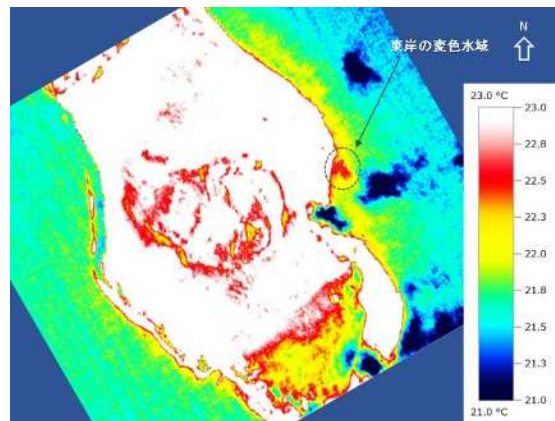


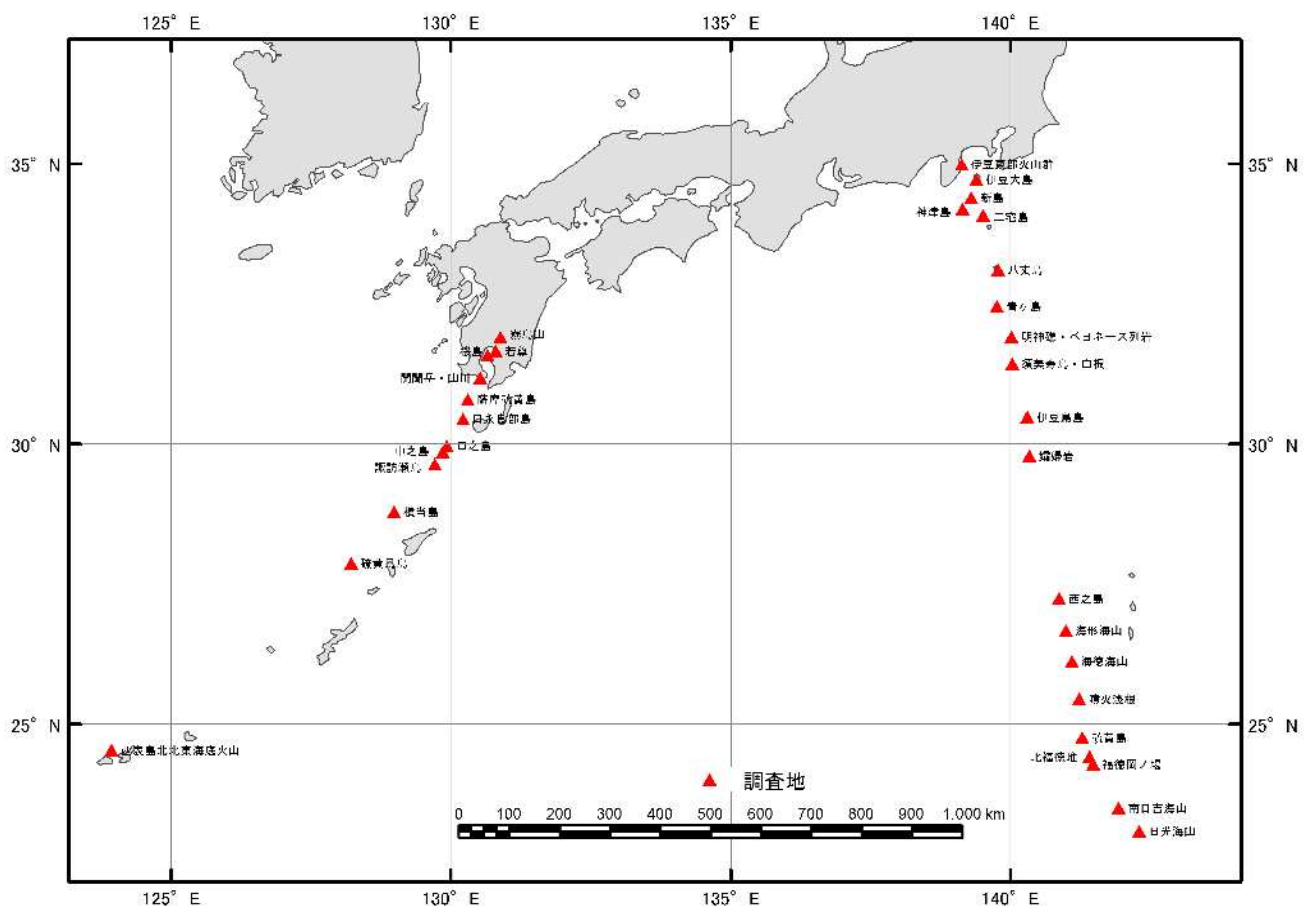
図 3 熱計測画像 2015/ 7 /28 10:13 撮影
撮影高度 約 3,000m 使用機器:TESTO 社製 TESTO-890

西表島北北東海底火山

○ 最近の活動について

年月日	調査機関等	活 動 状 況
2015/ 6 /16	第 十 一 管 区 海 上 保 安 本 部	特異事象認めず。
2015/ 7 /27	海 上 保 安 庁	特異事象認めず。
2015/ 9 / 3	第 十 一 管 区 海 上 保 安 本 部	特異事象認めず。
2015/10/ 7	第 十 一 管 区 海 上 保 安 本 部	特異事象認めず。

参 考 火 山 配 置 図



「だいち2号」SAR干渉解析判読結果（中国・九州地方及び西南諸島）

地方	活火山名	衛星進行方向 (南行/北行)	Bperp (m)	観測方向 (右/左)	入射角(°)	観測日		期間(日)	判読結果	資料の有無
						マスター	スレーブ			
中国	三瓶山	北行	- 103	右観測	36.2	2015/3/8	2015/6/14	98	干渉不良により有意な結果は得られなかった。	
		北行	- 39	右観測	36.2	2014/8/24	2015/6/14	294	ノイズレベルを超える変動は見られない。	
	阿武火山群	北行	- 222	右観測	39.7	2015/4/10	2015/7/3	84	干渉不良により有意な結果は得られなかった。	
		北行	- 223	右観測	39.7	2014/11/7	2015/7/3	238	干渉不良により有意な結果は得られなかった。	
九州・沖縄	雲仙岳	北行	- 20	右観測	39.7	2015/4/1	2015/6/24	84	ノイズレベルを超える変動は見られない。	○
		北行	- 30	右観測	39.7	2014/9/17	2015/6/24	280	平成新山では衛星から遠ざかる変動が見られる。	
	福江火山群	北行	+ 156	右観測	43.7	2014/10/6	2015/7/13	280	干渉不良により有意な結果は得られなかった。	
		北行	+ 72	右観測	43.7	2015/4/20	2015/7/13	84	ノイズの影響が大きく有意な結果は得られなかった。	
	鶴見岳・伽藍岳	北行	- 97	右観測	36.3	2015/3/13	2015/6/19	98	干渉不良により有意な結果は得られなかった。	
		北行	- 98	右観測	36.3	2014/8/29	2015/6/19	294	ノイズレベルを超える変動は見られない。	
	由布岳	北行	- 97	右観測	36.3	2015/3/13	2015/6/19	98	ノイズレベルを超える変動は見られない。	
		北行	- 98	右観測	36.3	2014/8/29	2015/6/19	294	ノイズレベルを超える変動は見られない。	
	九重山	北行	- 97	右観測	36.3	2015/3/13	2015/6/19	98	ノイズレベルを超える変動は見られない。	
		北行	- 98	右観測	36.3	2014/8/29	2015/6/19	294	ノイズレベルを超える変動は見られない。	
	阿蘇山	北行	- 97	右観測	36.3	2015/3/13	2015/6/19	98	ノイズレベルを超える変動は見られない。	○
		北行	- 98	右観測	36.3	2014/8/29	2015/6/19	294	ノイズレベルを超える変動は見られない。	
		南行	- 87	右観測	35.7	2015/2/23	2015/9/7	196	ノイズレベルを超える変動は見られない。	
		南行	+ 60	左観測	52.9	2015/7/6	2015/9/14	70	ノイズレベルを超える変動は見られない。	
		南行	- 41	右観測	35.7	2015/2/23	2015/9/21	210	ノイズレベルを超える変動は見られない。	
		南行	+ 46	右観測	35.7	2015/9/7	2015/9/21	14	ノイズレベルを超える変動は見られない。	
	霧島山	北行	- 41	右観測	32.5	2014/10/24	2015/6/5	224	新燃岳火口内では衛星に近づく変動が見られる。	○
		北行	- 252	右観測	32.5	2015/2/27	2015/6/5	98	新燃岳火口内では衛星に近づく変動が見られる。	
		北行	+ 11	右観測	43	2015/4/15	2015/7/8	84	韓国岳火口内では衛星に近づく変動が見られる。 新燃岳火口内では衛星に近づく変動が見られる。	
		北行	+ 153	右観測	43	2014/10/29	2015/7/8	252	韓国岳火口内では衛星に近づく変動が見られる。 新燃岳火口内では衛星に近づく変動が見られる。	
	米丸・住吉池	北行	- 20	右観測	39.7	2015/4/1	2015/6/24	84	ノイズレベルを超える変動は見られない。	
		北行	- 30	右観測	39.7	2014/9/17	2015/6/24	280	ノイズレベルを超える変動は見られない。	

地方	活火山名	衛星進行方向 (南行/北行)	Bperp (m)	観測方向 (右/左)	入射角(°)	観測日		期間(日)	判読結果	資料の有無
						マスター	スレーブ			
九州・沖縄	桜島	北行	- 20	右観測	39.7	2015/4/1	2015/6/24	84	ノイズレベルを超える変動は見られない。	○
		北行	- 30	右観測	39.7	2014/9/17	2015/6/24	280	ノイズレベルを超える変動は見られない。	
		北行	+ 11	右観測	43	2015/4/15	2015/7/8	84	ノイズレベルを超える変動は見られない。	
		北行	+ 153	右観測	43	2014/10/29	2015/7/8	252	ノイズレベルを超える変動は見られない。	
		南行	- 2	右観測	36.2	2015/2/23	2015/6/1	98	ノイズレベルを超える変動は見られない。	
		北行	- 27	右観測	42.4	2015/1/7	2015/8/19	224	南岳山頂火口と鍋山の間では衛星に近づく地殻変動が見られる。	
		北行	+ 14	右観測	42.4	2015/4/15	2015/7/8	84	ノイズレベルを超える変動は見られない。	
		北行	- 242	右観測	42.4	2015/7/8	2015/7/22	14	ノイズレベルを超える変動は見られない。	
		北行	+ 167	右観測	42.4	2015/7/22	2015/8/19	28	南岳山頂火口と鍋山の間では衛星に近づく地殻変動が見られる。	
		北行	- 193	右観測	42.4	2015/1/7	2015/7/22	196	ノイズレベルを超える変動は見られない。	
		北行	+ 61	左観測	39.7	2015/1/4	2015/8/16	224	南岳山頂火口の東側の広い範囲では衛星に近づく地殻変動が見られる。	
		南行	+ 104	左観測	52.9	2015/7/6	2015/8/17	42	南岳山頂火口と鍋山の間を境に、東側で衛星から遠ざかる地殻変動が、西側で衛星に近づく地殻変動が見られる。	
		南行	- 62	右観測	36.2	2015/2/9	2015/6/1	112	ノイズレベルを超える変動は見られない。	
		南行	- 266	右観測	36.2	2015/2/9	2015/8/10	182	ノイズレベルを超える変動は見られない。	
		南行	- 205	右観測	36.2	2015/2/23	2015/8/10	168	ノイズレベルを超える変動は見られない。	
		南行	- 204	右観測	36.2	2015/6/1	2015/8/10	70	ノイズレベルを超える変動は見られない。	
		南行	- 48	右観測	36.2	2015/6/1	2015/8/24	84	南岳山頂火口の東側の広い範囲では衛星に近づく地殻変動が見られる。	
		南行	+ 154	右観測	36.2	2015/8/10	2015/8/24	14	南岳山頂火口の東側の広い範囲では衛星に近づく地殻変動が見られる。	
		南行	+ 124	右観測	36.2	2015/8/10	2015/9/7	28	南岳山頂火口の東側の広い範囲では衛星に近づく地殻変動が見られる。	
		南行	- 31	右観測	36.2	2015/8/24	2015/9/7	14	南岳山頂火口の東側の広い範囲では衛星に近づく地殻変動が見られる。	
		南行	+ 37	左観測	36.2	2015/8/17	2015/8/31	14	ノイズレベルを超える変動は見られない。	
		南行	+ 141	左観測	36.2	2015/7/6	2015/8/31	56	南岳山頂火口と鍋山の間を境に、東側で衛星から遠ざかる地殻変動が、西側で衛星に近づく地殻変動が見られる。	
	池田・山川	北行	- 20	右観測	39.7	2015/4/1	2015/6/24	84	ノイズレベルを超える変動は見られない。	
		北行	- 30	右観測	39.7	2014/9/17	2015/6/24	280	ノイズの影響が大きく有意な結果は得られなかった。	
	開聞岳	北行	- 20	右観測	39.7	2015/4/1	2015/6/24	84	ノイズレベルを超える変動は見られない。	
		北行	- 30	右観測	39.7	2014/9/17	2015/6/24	280	ノイズの影響が大きく有意な結果は得られなかった。	

地方	活火山名	衛星進行方向 (南行/北行)	Bperp (m)	観測方向 (右/左)	入射角(°)	観測日		期間(日)	判読結果	資料の有無
						マスター	スレーブ			
九州・沖縄	口永良部島	北行	+ 210	右観測	36.7	2014/8/20	2015/6/10	294	新岳山頂周辺では干渉不良となっている。 ノイズレベルを超える変動は見られない。	○
		北行	- 88	右観測	36.7	2015/3/4	2015/6/10	98	新岳山頂周辺では干渉不良となっている。 ノイズレベルを超える変動は見られない。	
		南行	+ 255	左観測	33.9	2015/5/29	2015/6/26	28	新岳山頂周辺では干渉不良となっている。 ノイズレベルを超える変動は見られない。	
		南行	- 142	左観測	33.9	2015/6/12	2015/6/26	14	ノイズレベルを超える変動は見られない。	
		南行	- 98	左観測	33.9	2015/6/26	2015/7/24	28	ノイズレベルを超える変動は見られない。	
		南行	- 241	左観測	33.9	2015/6/12	2015/7/24	42	新岳山頂周辺では干渉不良となっている。 ノイズレベルを超える変動は見られない。	
		南行	+ 41	左観測	34.1	2015/6/26	2015/8/21	56	ノイズレベルを超える変動は見られない。	
		南行	+ 138	左観測	34.1	2015/7/24	2015/8/21	28	ノイズレベルを超える変動は見られない。	
		南行	+ 152	左観測	33.9	2015/1/14	2015/8/26	224	新岳山頂周辺では干渉不良となっている。 ノイズレベルを超える変動は見られない。	
		南行	+ 55	左観測	33.9	2015/8/12	2015/8/26	14	ノイズレベルを超える変動は見られない。	
	口之島	北行	+ 210	右観測	36.7	2014/8/20	2015/6/10	294	ノイズレベルを超える変動は見られない。	
		北行	- 88	右観測	36.7	2015/3/4	2015/6/10	98	ノイズレベルを超える変動は見られない。	
	諏訪之瀬島	北行	+ 82	右観測	43.7	2015/4/20	2015/7/13	84	ノイズレベルを超える変動は見られない。	
		北行	+ 157	右観測	43.7	2014/10/6	2015/7/13	280	ノイズレベルを超える変動は見られない。	